2022年度（令和4年度）

シラバス

総合科学科目
専門基礎科目
専門展開科目

岐阜保健大学
リハビリテーション学部作業療法学科

目次（リハビリテーション学部作業療法学科）

	授業科目	配当年次			配当年次	必修	選択	時間数			
総合科学科目	基礎ゼミナール	1年	前期	必修	1前	1		30	作業療法士教員全員		
	情報科学	1年	前期	必修	1前	1		30	國澤英雄		
	基礎統計学	1年	前期	必修	1前	1		30	國澤英雄		
	問題解決法	1年	後期	選択	1後		1	30	西牟田祐美子		
	哲学	1年	前期	選択	1前		1	30	鷲見コト江		
	英語Ⅰ	1年	前期	必修	1前	1		30	西牟田祐美子		
	英語Ⅱ	1年	後期	必修	1後	1		30	西牟田祐美子		
	中国語Ⅰ	2年	前期	選択	2前		1	30	干海		
	中国語Ⅱ	2年	後期	選択	2後		1	30	干海		
	教育学概論	1年	前期	必修	1前	2		15	伊藤亜希子		
	現代の倫理	1年	前期	必修	1前	2		15	鷲見コト江		
	現代の教育	2年	後期	選択	2後		2	15	伊藤亜希子		
	心理と行動	1年	後期	選択	1後		2	15	石井友明		
	健康と生活	1年	前期	選択	1前		2	15	藤井稚也	鈴木啓介	廣田 薫
	岐阜県の歴史と文化	2年	前期	選択	2前		2	15	池田雅志		
	自己管理と社会規範	1年	前期	選択	1前		2	15	高山務		
	人間関係論	1年	前期	必修	1前	2		15	市川季夫		
	コミュニケーション論	1年	後期	必修	1後	1		15	國澤英雄		
	健康と運動（体育）	1年	前期	必修	1前	1		30	青崎浩士	石塚和重	
専門基礎科目	解剖学	1年	前期	必修	1前	2		30	高井良招		
	解剖学演習	1年	後期	必修	1後	1		30	高井良招		
	機能解剖学	1年	後期	必修	1後	1		30	高井良招		
	機能解剖学演習	2年	前期	必修	2前	1		30	高井良招		
	生理学Ⅰ	1年	前期	必修	1前	1		30	太田美智男		
	生理学Ⅱ	1年	後期	必修	1後	1		30	太田美智男		
	生理学演習	2年	前期	必修	2前	1		30	太田美智男		
	運動学Ⅰ	1年	前期	必修	1前	1		30	酒向俊治	小澤敏夫	原 和子
	運動学Ⅱ	1年	後期	必修	1後	1		30	酒向俊治	小澤敏夫	原 和子
	運動学演習	2年	前期	必修	2前	1		30	近藤崇史		
	生命倫理	1年	前期	必修	1前	1		15	太田美智男		
	人間発達学	1年	後期	必修	1後	1		30	平岡翠		
	病理学	1年	後期	必修	1後	1		30	川田憲司		
	感染防御と安全管理	1年	後期	必修	1後	1		15	太田美智男		
	臨床心理学	2年	前期	必修	2前	1		30	西牟田祐美子		
	一般臨床医学	1年	後期	必修	1後	1		30	河田美紀		
	呼吸循環器内科学	2年	前期	必修	2前	1		30	河田美紀		
	神経内科学	2年	前期	必修	2前	1		30	河田美紀		
	整形外科学	2年	前期	必修	2前	1		30	河田好泰		
	精神医学	2年	前期	必修	2前	1		30	井上眞人		
	小児科学	2年	前期	必修	2前	1		30	近藤直実		
	栄養代謝学	2年	後期	必修	2後	1		15	森 裕志		
	医療薬理学	2年	後期	必修	2後	1		15	永井博弐		
	リハビリテーション工学	2年	後期	必修	2後	1		15	就任予定者		
	スポーツリハビリテーション概論	2年	前期	必修	2前	1		15	石塚和重		
	老年学	2年	後期	必修	2後	1		30	河田美紀		
	リハビリテーション医学	1年	後期	必修	1後	2		15	江崎正浩		
	リハビリテーション概論	1年	前期	必修	1前	2		15	酒向俊治	小澤敏夫	
	地域包括ケアシステム論	1年	後期	必修	1後	1		15	藤井稚也		
	社会福祉概論	2年	前期	選択	2前		1	15	市川季夫		
	作業療法学概論	1年	後期	必修	1後	2		15	原 和子	大星有美	
	表面解剖学	1年	後期	必修	1後	1		30	原 和子		
	基礎作業学	1年	後期	必修	1後	1		30	原 和子		
	作業療法理論	2年	前期	必修	2前	1		15	原 和子		
	基礎作業学演習	2年	後期	必修	2後	1		30	原 和子	宇佐美知子	
	作業療法評価概論	1年	後期	必修	1後	1		30	澤 俊二	大星有美	
	作業療法評価検査・測定論Ⅰ	2年	前期	必修	2前	1		30	澤 俊二	宇佐美知子	

専門展開科目	作業療法評価検査・測定論Ⅱ	2年　後期　必修	2後	1		30	澤 俊二	宇佐美知子	
	日常生活活動学	2年　前期　必修	2前	1		30	澤 俊二		
	日常生活活動演習	2年　後期　必修	2後	1		30	就任予定者		
	義肢装具学	2年　後期　必修	2後	1		30	原 和子		
	作業と心身機能	2年　前期　選択	2前		1	30	澤 俊二		
	作業と神経生理	2年　前期　選択	2前		1	30	大星有美		
	中枢神経系作業療法学Ⅰ	2年　後期　必修	2後	2		15	澤 俊二	大星 有美	
	中枢神経系作業療法学Ⅱ	2年　後期　必修	2後	2		15	澤 俊二	大星 有美	
	運動器系作業療法学	2年　後期　必修	2後	1		15	就任予定者		
	内部障害作業療法学	2年　後期　必修	2後	1		15	柴貴志		
	精神障害作業療法学	2年　後期　必修	2後	1		15	就任予定者		
	発達障害作業療法学	2年　後期　必修	2後	1		15	相羽秀子		
	老年期障害作業療法学	2年　後期　必修	2後	1		30	藤井稚也	大星有美	
	ハンドセラピィ学	2年　後期　必修	2後	1		30	原 和子		
	地域作業療法学	2年　前期　必修	2前	2		15	澤 俊二	藤井稚也	
	臨床実習Ⅰ(基礎)	1年　後期　必修	1後	1		45	作業療法士教員全員		
	臨床実習Ⅱ(地域)	2年　前期　必修	2前	1		45	作業療法士教員全員		
	実践力演習Ⅰ	1年　後期　必修	1後	1		30	作業療法士教員全員		
	実践力演習Ⅱ	2年　後期　必修	2後	1		30	作業療法士教員全員		

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	基礎ゼミナール	担当教員名	作業療法士教員全員　澤俊二・原和子・大星有美・宇佐美和子・藤井稚也【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	本学での導入科目であり、大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法を身につけることを目的とする。少人数クラスによる教員との直接対話を通じて学修意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育み、大学生として必要な基礎的技能を修得する。医療・リハビリテーションのトピックスを用いたセミナー形式の授業で、文献検索、意見発表、意見交換、プレゼンテーション、レポート作成等を行い、大学で学ぶための必要なアカデミックスキルを修得し、リハビリテーション学に対する学びの意欲を高める。		
到達目標	大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法と、大学で学ぶための必要なアカデミックスキルを身につける。		

授　業　計　画		
回数	授業テーマ	授業内容
第1回	イントロダクション・大学での学び	大学での学びの特色や目的について、意見交換を交えながら学ぶ。
第2回	リハビリテーション学部の学び	リハビリテーション学部の4年間の学びについて概観し、これから学ぶカリキュラムを把握する。
第3回	リハビリテーション職としてのキャリア設計	国家試験の受験と就職、その後のリハビリテーション職としてのキャリアパスについて学び、キャリア意識を高める。
第4回	医療職とは	医療専門職全般について学ぶ。
第5回	図書館の利用	図書館の利用方法と、大学における読書方法、読書の重要性について学ぶ。
第6回	インターネットの利用	インターネット、携帯電話、SNSの利用方法、そのリテラシーについて学ぶ。
第7回	文献・資料の検索・収集方法①	学術文献の検索と収集の方法について、具体的な課題に基づきグループワークを行い、資料を収集する。
第8回	文献・資料の検索・収集方法②	学術文献の検索と収集の方法について、具体的な課題に基づきグループワークを行い、発表を行う。
第9回	レポートの書き方①	大学におけるレポートの書き方について具体的に学び、特定の課題についてレポートを作成する。
第10回	レポートの書き方②	作成したレポートを発表し、意見交換を行う。
第11回	発表（プレゼンテーション）の方法①	パワーポイント等を使用した発表（プレゼンテーション）の方法について学び、その準備を行う。
第12回	講義時に指定する	個々の課題について発表を行い、意見交換を行う。
第13回	議論（ディスカッション）の方法	議論（ディスカッション）の方法について学ぶ。
第14回	学生による個別テーマの発表と議論①	本授業のまとめとして、学生による個別テーマの発表を行い、その内容について議論を行う。
第15回	学生による個別テーマの発表と議論②	本授業のまとめとして、学生による個別テーマの発表を行い、その内容について議論を行う。

テキスト・参考書	テキスト:特に指定しない。毎回資料を配布する。
学修方法	10名程度の少人数クラスでの演習形式で授業を行う。
評価方法	講義中の発表（50%）、レポート（50%）
オフィスアワー	水曜日　16:20～17:20　研究室
備考・履修条件	1）10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。 2）担当教員の指導のもと、文章読解・作成トレーニングを実施することがある。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	情報科学	担当教員名	國澤 英雄【実務該当教員】
学年 開講時期	１年次　前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	大学での学びに必須となる基礎的な情報科学について教授する。 Windows PCの基礎知識と大学内のPC・ネットワークを活用する方法を知ったうえで、レポート、卒業研究、その他あらゆる資料を 作成するために必要なソフトウェア（Word、Excel、PowerPoint）を用いた文書作成、表計算・グラフ作成、プレゼンテーションの 技術を身につける。なお本講座ではWord、Excel、Power Pointとも、基本的な内容が機能的に網羅されているために、これらのソフトウェアの一般的な活用が可能となる。		
到達目標	① 電子メールの作成、送信、受信ができる。 ② Wordを用いて文書・表が作成ができる。書式の設定・段組みができる。アートの挿入ができる ③ Excelを用いてグラフ・表の作成の作成や計算ができる。シート設定・作業グループの変更ができる。 ④ PowerPointを用いてプレゼンテーション資料の作成ができる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	PCの基本、ネットワークの活用	PCの情報処理の原理、ハードウエア、学内ネットワークの活用
第2回	Word基本操作	Wordの起動・終了、ファイル操作、文字の入力・変換
第3回	Word文章の作成	文書の確認、ページ設定、コピー・移動、保存
第4回	Word表の作成	表の作成、表の範囲の選択、表のレイアウトの変更
第5回	Word文章の編集	様々な書式の設定、段組みの設定
第6回	Word表現力のアップ	ワードアートの挿入、クリップアートの挿入、図形の作成
第7回	Excel基本操作	Excelの起動・終了、ブックを開く・セル指定、スクロール
第8回	Excelデータの入力	データの入力・編集、セルの範囲の選択、ブックの保存
第9回	Excel表の作成	関数の入力、罫線・塗りつぶしの設定、表示形式の設定
第10回	Excel数式の入力	関数の入力の確認、様々な関数の利用、相対参照・絶対参照
第11回	Excel複数ｼｰﾄの操作	シート名の変更、作業グループの設定、シートの移動・コピー
第12回	講義時に指定する	図の外観の変更、図の回転・トリミング、図の背景の削除
第13回	Power Pointグラフィックの活用	ページ設定の変更、背景の設定、図形の作成、配置の調整
第14回	Power Pointマルチメディアの活用	ビデオの挿入、ビデオの編集、オーディオの挿入
第15回	Power Pointスライドのカスタマイズ	スライドマスターの表示・編集、ヘッダー・フッターの挿入

テキスト・参考書	教科書：「よくわかる Microsoft Word 2019 基礎」（FOM出版）ISBN 978-4-86510-382-3 教科書：「よくわかる Microsoft Excel 2019 基礎」（FOM出版）ISBN 978-4-86510-380-9 教科書：「よくわかる Microsoft PowerPoint 2019 基礎」（FOM出版）ISBN 978-4-86510-384-7
学修方法	各テーマについての講義、演習を行う。講義には教科書に加えてプリントを使う。
評価方法	演習問題の成績（40%）、定期試験成績（60%）
オフィスアワー	火曜日・水曜日　16:20～17:20　研究室
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	基礎統計学	担当教員名	國澤 英雄【実務該当教員】
学年 開講時期	１年次 前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	近年リハビリテーションの分野でも、実証的なデータを解析するために必要な統計学的手法を身につけることが求められている。そこで本講座では、ヒストグラムの意義と作成、確率の概念、確率分布、標本分布、母平均、分散 の推定、母平均の信頼区間、仮説検定、相関と回帰、カイ二乗検定、平均値に対する推定等の分析手法を学習する。リハビリテーション分野を中心として、多くの医療分野での具体的な統計の実例を示すとともに、各単元毎に、演習問題を解き統計学の理解を深める。		
到達目標	① 基本統計量（平均、標準偏差）、標準誤差、変動係数、箱ひげ図などを使ってデータの整理ができる。 ② 正規性の確認、片側検定・両側検定、仮説検定など統計的推論の基礎を理解し、活用できる。 ③ 相関係数の検定と推定、回帰直線の検定と信頼区間など相関係数と回帰直線の推論ができる。 ④ データ分析ををもとに、罹患率と死亡率の推定など頻度に対する推論・生存に関する推論ができる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	医学データの整理１	ヒストグラム、平均、分散、標準偏差
第2回	医学データの整理２	標準誤差、変動係数、中央値、箱ひげ図
第3回	医学データの整理３	散布図、相関係数、回帰直線
第4回	統計学推論推論の基礎１	正規分布、正規性の確認、二項分布Poisson分布
第5回	統計学的推論の基礎２	仮説検定の考え方、片側検定と両側検定、検定統計量と有意水準
第6回	統計学的推論の基礎３	標準正規分布、カイ二乗分布、 t 分布、F分布
第7回	平均値に関する推論	正規母集団の母平均μに関する推定、二つの母平均の差の検定
第8回	相関係数と回帰係数に関する推論１	相関係数の検定と信頼区間
第9回	相関係数と回帰係数に関する推論２	回帰係数の検定と信頼区間
第10回	頻度の関する推論１	Proportionとrate、母ｐに関する推定、2×2分割表のχ^2検定
第11回	頻度の関する推論２	Fisherの正確な検定、対応のある2つの母比率の差の検定
第12回	講義時に指定する	罹患率、死亡率に関する推測、厄病発生のリスク比較
第13回	生存時間に関する推論	生存率曲線、生存率のKaplan-Meierの推定法
第14回	実験計画法-分散分析１	一元配置分散分析、正規性・等分散の確認、順位検定
第15回	実験計画法-分散分析２	完備乱塊法、Friedmanの順位検定、ラテン方格法

テキスト・参考書	グレクサにて配信する
学修方法	グレクサにて資料に基づいた予習復習を心掛けること。電卓を持ってくること
評価方法	演習問題の成績（40%）、定期試験成績（60%）
オフィスアワー	火曜日・水曜日　16:20～17:20　研究室
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	問題解決法	担当教員名	西牟田 祐美子【実務該当教員】
学年 開講時期	１年次　後期	授業の方法	講義
単位数	１単位	必修/選択	選択
授業の概要	現代社会はモデルのない時代であるといわれるが、そのような中にあって、自らの課題をどのように設定するのか、具体的なあるべき姿はどのようにして描いていけるのかなどが課題となる。問題解決法とはこれからの人生設計・自己実現のために何を人生の目的とするのか、その目的のために具体的な目標を立てそれに向かって具体的な計画を立てていくためのポイントなどを取り扱う。		
到達目標	自己とは何か？自分とは何かという問いかけなしに自己実現、人生の目的は設定できない。この授業では古典的心理学者たちの自己の在り方、また自己実現を学修しながら、自分なりの目的を探す手がかりとする。また実際行っていく中で遭遇する問題を自分なりに特定し、その対処法も思索させる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	自己とは何か	テキスト、プリントを基に自己とは何か自分なりに考察する。
第2回	フロイトの考える自我、自己	テキスト、プリントを基に、フロイトの考える自我、自己を理解する。
第3回	ユングの考える自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、ユングの考える、自己と自己実現を理解する。
第4回	アードラーの考える、自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、アードラーの考える自己と自己実現を理解する。
第5回	マズローの考える自己実現	テキスト、プリントを基に、マズローの考える欲求と自己実現を理解する。
第6回	行動療法の考える自己と問題解決	テキスト、プリントを基に、行動療法の考える自己と問題解決法を理解する。
第7回	まとめ　レポート	まとめ、レポート
第8回	認知行動療法の考える自己と問題解決	テキスト、プリントを基に、認知行動療法の考える自己と問題解決を理解する。
第9回	ヒューマニスティックアプローチの考える自己と自己実現	テキスト、プリントを基に、ヒューマニスティックアプローチの自己と自己実現を理解する。
第10回	アサーティブネスと自己実現	テキスト、プリントを基に、アサーティブネスを理解する。
第11回	コーピングと自己実現	テキスト、プリントを基に、コーピングを理解する。
第12回	講義時に指定する	テキスト、プリントを基に、ジェンダーと自己、自己実現を理解する。
第13回	カウンセリングと自己実現	テキスト、プリントを基に、カウンセリングと自己実現を理解する。
第14回	カウンセリングと問題解決	テキスト、プリントを基に、カウンセリングと問題解決を理解する。
第15回	まとめ	授業を総括した講義を行う

テキスト・参考書	別途指示する。
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	筆記テスト30%、授業への取り組み65%、レポート5%
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	積極的に授業に参加することが望まれる。この科目の単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(学修課題(予習.復習)に示されている内容の学修)が必要である。毎時間提出する振り返りシートや課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	哲学	担当教員名	鷲見 コト江
学年 開講時期	1年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	選択
授業の概要	西洋哲学、東洋哲学についての基本的な概念を学び、日常的なテーマを使った発表や議論を通じて、哲学を実践的に学ぶ。看護は実践の科学であると共に、看護の対象となる人との相互関係においては、哲学的な思考が有用となる場合もある。哲学と哲学的思考法を、演習形式を通じて身につけることを目的とする。		
到達目標	フランスの哲学者アンリ・ベルクソンは、「科学と哲学を結び付け、それを次第に発展させることで、存在そのものを、我々はその深みにおいてとらえることができる」と言い、科学と哲学は対立するのではなく、互いに認め合い協力することによって、真理に近づくことができると考えている。このベルクソンの考え従って、現代の科学の発見も踏まえて、「命とは何か」「人間とは何か」を考えていきたい。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	哲学誕生	ギリシア哲学とは
第2回	哲学とは	哲学の課題
第3回	愛知学としての哲学	哲学の意味
第4回	科学と哲学	科学と哲学の違い
第5回	ベルクソンの存在論	存在とは
第6回	現代の宇宙論	宇宙とは
第7回	宇宙の歴史	物質誕生
第8回	ベルクソンの生命論	創造的進化とは
第9回	現在の生命論・進化論	生命とは・生命の進化とは
第10回	人類の歴史	ホモサピエンス誕生
第11回	ベルクソンの人間論	人間とは
第12回	講義時に指定する	人体と自己
第13回	社会的心的存在者としての人間	障害者と健常者
第14回	発達障害とは	発達障害者の心
第15回	医学と看護	澤瀉久敬の看護論

テキスト・参考書	テキスト：指定しない。 参考図書：講義中に指示します。
学修方法	
評価方法	授業の参加状況10%、学習課題40%、最終試験またはレポート50%により評価する。
オフィスアワー	講義後　10～15分間　非常勤講師控室
備考・履修条件	ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題について自分でよく考えること。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	英語Ⅰ	担当教員名	西牟田 祐美子【実務該当教員】
学年 開講時期	１年次　前期	授業の方法	講義
単位数	１単位	必修/選択	必修
授業の概要	グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の４技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅰ」では、日常生活及び将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語（Medical　Term）をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。		
到達目標	① 英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 ② 現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション、自己紹介	自己紹介,他己紹介の練習
第2回	Emergency and vital signes	救急とバイタルサインに関する英語
第3回	Radiology	レントゲンに関する英語
第4回	Bones	骨に関する英語
第5回	Body parts	身体の部位に関する英語
第6回	Body organs	臓器に関する英語
第7回	Hospitalization	入院に関する英語
第8回	Medicine	投薬に関する英語
第9回	Nutrition and Allergies	栄養とアレルギーに関する英語
第10回	Matanity out patient	妊娠出産に関する英語
第11回	Pediatric Outpatient	小児科外来と幼児英語
第12回	講義時に指定する	退院に関する英語
第13回	Palliative care	緩和ケア、ホスピスに関する英語
第14回	Visitor	面会に関する英語と、海外医療
第15回	Making suggestions	提案に関する英語、まとめのテスト

テキスト・参考書	テキスト：英語で学ぶプライマリーケア　西牟田祐美子編著　講談社
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてオンライン資料を適宜使用する。
評価方法	筆記テスト60%、プレゼン10%、宿題30%
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習.復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	英語Ⅱ	担当教員名	西牟田 祐美子
学年 開講時期	１年次　後期	授業の方法	講義
単位数	１単位	必修/選択	必修
授業の概要	グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の４技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅱ」では、「英語Ⅰ」の続編として、将来的にリハビリテーションの現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用い、複雑な会話やコミュニケーションができる能力を養う。また保健医療に関する文献等を使い、その読解力を向上させる。保健医療の用語を英語で表現し、自らの意見も英語で表現できることを目指す。		
到達目標	英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	会話、夏休み	スクラップページを作成する。
第2回	プレゼンテーション	リハビリテーションについて書く。
第3回	フィットネス/ダイエット	食品群について理解する。
第4回	ブレーンストーミング、単語	新出単語の復習をする。
第5回	怖い話	怖かった出来事について作文する。
第6回	ハロウィン	仮定法の練習をする。
第7回	発音、許可を求める	空欄を埋める
第8回	アドバイスする	質問文を作る
第9回	過去について話す	写真を準備する
第10回	経験についての文章をつくる。	完了形(現在、過去)の文の練習をする。
第11回	こうであったら、と想像する	仮定法過去完了の文の練習をする。
第12回	講義時に指定する	歌を覚える
第13回	歌、ダイアローグ	カード、手紙を書く。
第14回	復習	学修したことを単語中心に復習する。
第15回	確認テスト	学修したことをまとめて復習する。

テキスト・参考書	適宜教材を印刷して渡す。
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	筆記テスト20%、プレゼン20%、授業態度25%、宿題10%、クイズ20%、ロールプレイ5%
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習.復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	中国語Ⅰ	担当教員名	干海
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	講義
単位数	１単位	必修/選択	選択
授業の概要	中国語の基礎について学修する。中国語で読む、書く、話すなどの総合コミュニケーションの能力の養成を目標とする。まず発音記号であるピンインを学び、その後、中国語の表現の仕組みを理解し、簡単な日常会話ができるようにする。中国語の基礎として、音節の構造、声調練習、母音、子音から始め、しっかり発音を練習する。挨拶や自己紹介から始め、簡単な会話ができるように、多くの会話練習ができるような講義を目指す。		
到達目標	中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	中国語概論	中国語の特性を概説する
第2回	中国語の表現	正書法の決めを説明する
第3回	中国語の音声①	中国語のメロディ―を詳説する
第4回	中国語の音声②	単母音、そり舌音と複母音を詳説する
第5回	中国語の音声③	鼻母音、子音と声調変化を詳説する
第6回	中国語の語順	語順の３原則を詳説する
第7回	中国語の表現の骨組	日本語との共通点及び相違点を提示する
第8回	中国語の表現の構造	基本単語（1)を説明する
第9回	中国語の表現①	命題とモダリティ―について詳説する
第10回	中国語の表現②	あいさつ言葉について説明する
第11回	中国語の表現③	人称代名詞と名詞述語文を詳説する
第12回	講義時に指定する	指示代名詞と形容詞述語文を詳説する
第13回	中国語の表現⑤	疑問詞疑問文と省略疑問文を詳説する
第14回	中国語の表現⑥	副詞、助動詞と連動文を詳説する
第15回	中国語の表現⑦	動詞述語文、「有」、「的」を詳説する

テキスト・参考書	テキスト　プリント配布 参考図書　随時紹介する。
学修方法	
評価方法	授業態度30%、筆記試験70%により評価する。
オフィスアワー	講義後に対応する。
備考・履修条件	この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	中国語Ⅱ	担当教員名	干海
学年 開講時期	2年次　後期	授業の方法	講義
単位数	１単位	必修/選択	選択
授業の概要	「中国語Ⅰ」の続編として、「中国語Ⅰ」で学んだ発音、会話、読み書きについて、より発展的に学修する。コミュニケーション能力養成では、中国を旅行する場合の会話、来日中国人観光客との会話について練習する。また、来日中国人観光客が、病気等で日本の医療機関に受診する際の会話についても学ぶ。語学の学修と同時に、中国語の基盤となっている中国の社会や文化についても理解を深める。		
到達目標	中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	中国語の表現⑧	基本単語（2）と簡単な会話文①
第2回	中国語の表現⑨	基本単語（3）と簡単な会話文②
第3回	中国語の表現⑩	基本単語（4）と簡単な会話文③
第4回	中国語の表現⑪	基本単語（5）と初診時の会話文
第5回	中国語の表現⑫	基本単語（6）と健康診断時の例文
第6回	中国語の表現⑬	基本単語（7）と臨床用の例文①
第7回	中国語の表現⑭	基本単語（8）と臨床用の例文②
第8回	中国語の表現⑮	基本単語（9）と臨床会話文①
第9回	中国語の表現⑯	基本単語（10）と臨床会話文②
第10回	中国語の表現⑰	基本単語（11）と臨床会話文③
第11回	中国語の表現⑱	基本単語（12）と臨床会話文④
第12回	講義時に指定する	基本単語（13）と臨床会話文⑤
第13回	中国語の表現⑳	基本単語（14）と臨床会話文⑥
第14回	中国語の表現㉑	基本単語（15）と臨床会話文⑦
第15回	中国語の表現㉒	まとめ

テキスト・参考書	テキスト　プリント配布 参考図書　随時紹介する。
学修方法	
評価方法	授業態度30％、筆記試験70％により評価する。
オフィスアワー	講義後に対応する。
備考・履修条件	この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	教育学概論	担当教員名	伊藤 亜希子
学年 開講時期	１年次　前期	授業の方法	講義
単位数	２単位	必修/選択	必修
授業の概要	教育の意味、役割、思想、方法、現状などについて広く概説する。これまでの学校生活の中での学習経験、部活動や習い事などの経験を振り返りながら、教育と学習の意味を再認識する。今後、専門的知識、技術を学ぶと同時に、理学療法、作業療法の専門家として指導する立場にあることを自覚し、意識を高める。そのために自分自身の学習にも教育の観点から、自己を客観的に捉える視点を学んでいく。		
到達目標	人間にとっての教育の意味を説明することができる。 教育学の基礎的な知識を身につけ、理解する。 現代の社会状況を踏まえ、教育の問題について考えを述べることができる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	教育学とは	授業内容の説明、自分自身の「教育」の体験
第2回	教育の目的と役割	教育とは何か、なぜ必要か、教育の目的と役割
第3回	教育の思想①　―学校の歴史と子ども観―	子ども観と教育観の変遷
第4回	教育の思想②　―西洋の教育史―	西洋における教育哲学と教育観の変遷
第5回	教育の思想③　―日本の場合―	日本における教育観と学校教育の変遷
第6回	教育の方法①	教育課程とカリキュラム
第7回	教育の方法②	授業の実践と評価
第8回	まとめ	１～7回目のまとめ
第9回	教育と心理①	教育における心理とは
第10回	教育と心理②	学習と思考
第11回	教育と心理③	記憶と情報処理
第12回	講義時に指定する	伝達とコミュニケーション
第13回	教育の現代的課題	子どもをめぐる問題、教育現場の現状
第14回	国際化と日本語教育	ブローバル化と日本語教育の現状
第15回	まとめ	まとめと展望

テキスト・参考書	教科書：プリント配布
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義ではプリントを配布する。適宜参考資料などを紹介する。
評価方法	受講態度（30%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小レポートの成績（30%）、期末レポート成績（40%）
オフィスアワー	講義後10分
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	現代の倫理	担当教員名	鷲見 コト江
学年 開講時期	1年次　前期	授業の方法	講義
単位数	２単位	必修/選択	必修
授業の概要	現代社会における様々な倫理の問題について、具体的なテーマを使って考察し理解を深める。現代社会のジレンマや難問に直面したとき、どのように考えるのがよいのか、その示唆を与えてくれる考え方を学修し、看護の対象となる人の理解につなげることが科目の目的である。		
到達目標	倫理学あるいは道徳哲学は、特に価値と規範の基礎付けにかかわる哲学の一部であり、古代ギリシアから始まる哲学の先人たちが、「人間はいかに生きるべきか、人生はいかにあるべきか」という問いに答えようとした学問である。価値すなわち善悪、規範すなわち義務と禁止の意味を考えながら、現代の問題に自分なりの答えを出す方法を学びます。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	倫理と道徳	倫理とは
第2回	論理的判断	価値判断の方法
第3回	現代の倫理的課題　Ⅰ	感染症
第4回	現代の倫理的課題　Ⅱ	SDGsとは
第5回	ホセ・ムヒカの倫理学	発展と幸福
第6回	アリストテレスの倫理学　Ⅰ	幸福とは
第7回	アリストテレスの倫理学　Ⅱ	善とは
第8回	デカルトの哲学と道徳	学問と道徳
第9回	デカルトの道徳	道徳の格率と徳
第10回	カントの道徳論　Ⅰ	不可知論と経験
第11回	カントの道徳論　Ⅱ	義務と幸福
第12回	講義時に指定する	アルツハイマー型認知症とは
第13回	ユマニチュードの倫理観	看護と人権
第14回	育児と人権	虐待とは
第15回	医療倫理	医療倫理の歴史

テキスト・参考書	テキスト　指定しない。 参考図書　講義中に指示します。
学修方法	
評価方法	授業の参加状況10%、学習課題４０％、最終試験またはレポート50%により評価する。
オフィスアワー	講義後　15分間　非常勤講師控室
備考・履修条件	ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題についてよく考えること。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	現代の教育	担当教員名	伊藤 亜希子
学年 開講時期	２年次　後期	授業の方法	講義
単位数	２単位	必修/選択	選択
授業の概要	現代の教育現場はこれまでにない多様な状況にある。脱ゆとり、いじめ問題にとどまらず、グローバル社会に向けた多文化共生教育、環境教育など従来とは異なる知識も必要となっている。現代の社会状況を踏まえ、多様な教育のあり方について学び、その課題について考えていく。		
到達目標	現代の教育の多様性なあり方を社会状況と合わせて理解することができる。 現代の教育に関する問題点を具体的に説明することができる。 社会状況を踏まえ、現代の教育について意見を述べることができる。		

授　業　計　画		
回数	授業テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	教育をめぐる時代の変化	教育の多様性と課題、概論
第3回	教育現場の問題①いじめの問題	いじめ、スクールカースト、現場の教師の現状
第4回	教育現場の問題②いじめをめぐる言説の変遷	いじめに対する捉え方、いじめの実態と言説
第5回	教育現場の問題③校則	校則をめぐる諸問題とその背景
第6回	ゆとり教育	ゆとり教育とは何だったのか
第7回	日本の教育と受験制度	学びと暮らし、仕事とのつながり
第8回	問われる学力	変動する時代に問われる学力とは
第9回	特別支援教育	特別支援教育の動向、インクルーシブ教育
第10回	まとめ	１～９回目のまとめ
第11回	諸外国との比較①	欧米の教育制度
第12回	講義時に指定する	欧米の教育問題
第13回	日本型の教育とは	これまでの日本の教育の問題点、教育文化の捉え直し
第14回	生涯学習	生涯学習の必要性と地域社会との共生
第15回	まとめと展望	今後の課題、展望

テキスト・参考書	教科書：プリント配布
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義ではプリントを配布する。適宜参考資料などを紹介する。
評価方法	受講態度（30%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小レポートの成績（30%）、期末レポート成績（40%）
オフィスアワー	講義後10分
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	心理と行動	担当教員名	石井 友明【実務該当教員】
学年 開講時期	１年次　後期	授業の方法	講義
単位数	２単位	必修/選択	選択
授業の概要	心理学は人の心や行動のメカニズムを研究する学問であり、また、行動科学はその心理学の手法を応用して現代社会における人の行動を広く研究する学問である。この科目では社会の中で人がとる行動のメカニズムや対人関係、集団心理などの社会的行動などを心理的側面から分析し、人間の理解を深めることが目的である。鍵概念は、発達、動機づけ、学習、知的能力、パーソナリティ、社会性、不適応、障害等である。他にも評価や集団等の重要な概念も学ぶ。これらは、単なる知識だけでなく、自分自身の振返り、将来の職場での自分の在り方のイメージ創り等、自分の内面の豊かさに結び付く。必要に応じて視聴覚教材を取り入れて進めていく。		
到達目標	社会生活に応用できる心理学の基本概念を学び、現場の事象を心理学的に捉え、人の理解や対応に活かす力を身につける。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション、心理の概念と歴史	講義の目的、目標、内容を理解する。
第2回	学習のメカニズム	条件づけ、観察学習について理解する。
第3回	記憶のメカニズム	記憶・知能・忘却について理解する。
第4回	個人差（知的能力／パーソナリティ）	パーソナリティの定義について理解する。
第5回	動機づけ	２つの動機付けとその理論について理解する。
第6回	学習過程	教授学習モデルについて理解する。
第7回	発達①	発達段階と発達課題について理解する。
第8回	発達②	認知発達理論について理解する。
第9回	発達③	社会性、道徳性の発達について理解する。
第10回	適応①	不登校の問題について理解する。
第11回	適応②	いじめのメカニズムとその防止について理解する。
第12回	講義時に指定する	発達障害の諸相について理解する。
第13回	発達障害②	アセスメントと支援方法について理解する。
第14回	集団	集団は個人にどのような影響を与えるかについて理解する。
第15回	まとめ	全体のまとめを行う。

テキスト・参考書	プリントを配布する。
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の参加状況10%、レポート20%、最終試験70%により評価する。
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	健康と生活	担当教員名	藤井稚也【実務該当教員】、鈴木啓介【実務該当教員】、廣田薫
学年 開講時期	１年次　前期	授業の方法	講義
単位数	２単位	必修/選択	選択
授業の概要	健康と生活との関係について学修する。基本的な生活習慣としては、食生活、睡眠、嗜好、社会参加などがあげられるが、様々な生活習慣と健康の関係について学修する。これらの生活習慣は健康に直接大きく関連しているのみでなく、特に食生活を例にとると、楽しさといった生活の質にも大きく関係する要素である。また、高齢者では生きがいなども密接な関係があることが明らかになっている。リハビリテーション職として必須となる、健康と生活の関係について、学生による調査・発表・討議を中心に授業を進めていく。		
到達目標	① 自らの心身の健康を保持するための基本的な生活を理解し、豊かな日常生活を送るために必要な生活習慣が理解できる。 ② 日常生活において起こるさまざまな問題に対して、対処できるライフスキルについて説明できる。		

授　業　計　画		
回数	授業テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション、健康と生活総論	新聞などで健康、医療福祉についての話題を閲覧しておくこと
第2回	ライフスタイルと健康①	食生活、飲酒、喫煙
第3回	ライフスタイルと健康②	休養、睡眠
第4回	ライフスタイルと健康③	運動、その他の身体活動
第5回	生活習慣病の科学①	肥満の発症メカニズムとその予防、改善方法
第6回	生活習慣病の科学②	糖尿病、脂質異常症の発症メカニズムと予防方法
第7回	生活習慣病の科学③	高血圧、動脈硬化の発症メカニズムと改善方法
第8回	生活習慣病の科学④	骨粗鬆症の発症メカニズムと改善方法
第9回	加齢と健康の科学①	サルコペニア、栄養摂取
第10回	加齢と健康の科学②	ロコモーティブシンドローム、フレイルの予防
第11回	健康増進のための運動の科学①	筋力トレーニング
第12回	講義時に指定する	持久性トレーニング
第13回	安全に生活をしていくための方法①	運動・活動(健康習慣)
第14回	安全に生活をしていくための方法②	仕事
第15回	安全に生活していくための方法③	地域での生活と活動

テキスト・参考書	テキスト：特に指定しない。毎回資料を配布する。 参考図書：健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病　第2版　日本医事新報社
学修方法	スライドによる講義を主として、時にはディスカッション形式を取り入れて学生間の意見交換を交えるなどして進めていく。
評価方法	定期試験（100%）
オフィスアワー	講義時に指定する
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	岐阜県の歴史と文化	担当教員名	池田 雅志【実務該当教員】
学年 開講時期	２年次　前期	授業の方法	講義
単位数	２単位	必修/選択	選択
授業の概要	文献や学外のフィールド調査等を通じて、岐阜県の歴史遺産や文化物、祭りや受け継がれる伝統、自然環境や地理、生活環境を理解することで、岐阜県の歴史と文化について学び、地域の特性、長所や課題についても理解する。授業ではアクティブラーニング的手法を重視し、学生自身による調査、研究、発表等により授業を進める。岐阜県の風土・歴史・社会文化について深く学ぶことで、先達が築き残した文化と歴史の上に現在の生活があることを理解する。		
到達目標	2回の岐阜市のフィールド調査をもとに郷土の歴史、祭りや受け継がれる伝統、自然環境、生活を探求することで岐阜県の風土や観光について深く学び、先達が築き残した文化と歴史の上に現在の生活があることを理解する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	岐阜市の歴史について学ぶ	岐阜市の歴史や継承される祭りや風習について学ぶ。
第2回	岐阜市 金華山周辺地域のフィールド調査の準備	フィールド調査の目的や課題などをグループで話しあう。
第3回	金華山周辺地域のフィールド調査 ①	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ①
第4回	金華山周辺地域のフィールド調査 ②	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ②
第5回	金華山周辺地域のフィールド調査 ③	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ③
第6回	金華山周辺地域のフィールド調査 ④	金華山（岐阜公園近辺、岐阜城、川原町）のフィールド調査 ④
第7回	金華山周辺地域のフィールド調査のまとめ	各グループでフィールド調査の結果をまとめて話し合う。
第8回	金華山周辺地域のフィールド調査発表会	各グループでフィールド調査結果を発表する。
第9回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド　調査の準備	フィールド調査の目的や課題などをグループで話しあう。
第10回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ①	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ①
第11回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ②	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ②
第12回	講義時に指定する	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ③
第13回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ④	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査 ④
第14回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査のまとめ	各グループでフィールド調査の結果をまとめて話し合う。
第15回	岐阜駅周辺と柳瀬地区のフィールド調査発表会	各グループでフィールド調査結果を発表する。

テキスト・参考書	テキスト ： 無し　（随時、プリント等を配布する） 参考図書 ： 伊藤安男著　地図で読む岐阜　飛山濃水の風土　古今書院
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。

評価方法	発表10％・レポート90％により評価する。 Ｓ（100～90点）：フィールド調査の内容のレポートがしっかりと出来て、さらにフィールド調査の準備・結果のまとめ・発表会に積極的に参加できた。 Ａ（89～80点）：　しっかりとした内容のフィールド調査レポートが出来ていた。 Ｂ（79～70点）：　両方のフィールド調査レポート提出ができている。 Ｃ（69～60点）：　フィールド調査のレポートが一つしか出ていない Ｄ（60点未満）：　2つのフィールド調査に出席していない
オフィスアワー	月曜日　16:20～17:20　研究室
備考・履修条件	グループごとにテーマを決めてフィールド調査を行うことにより、岐阜地域の風土や生活について学ぶ。岐阜県以外の出身者は、岐阜県の歴史や地域に関する本を読んでおくとよい。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	自己管理と社会規範	担当教員名	高山 務
学年 開講時期	１年次　前期	授業の方法	講義
単位数	２単位	必修/選択	選択
授業の概要	自己管理とは、自らををどう律するか、自らの管理・コントロールすのことである。リハビリテーション職には、自己管理能力と共に、リハビリテーションの対象となる人の自己管理能力を高めるための能力をも期待されている。自己管理をするにあたって必要となる要素には、感情のコントロール、意欲やモチベーションを保つこと、目的意識を持つこと　時間管理や体調の管理などがあり、それらをどのように保つのかを、社会規範との関連の中で具体的に学修する。社会規範の定義、成り立ち等の基礎知識を学び、社会のルールやモラルについて考察する。自己管理の基礎である時間、体調の管理方法を学び、大学生活のモチベーションや学びのスキルを維持し、向上させることで行動変容が導かれるよう、グループワークを中心として、他者との協働や多様な価値観の尊重について学ぶ。		
到達目標	日々の生活全般で、様々な場面における善悪や正誤を判断する基準としての社会規範やモラルの成り立ち、機能について理解し、人間社会のルールやモラルに従って行動するために必要な自己管理方法について学習する。また、自分が置かれている立場において、人々との共存に必要な社会規範の理解を深めるとともに、具体的な自己管 理のあり方を考える。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	自己管理していく力を養う	なぜ自己管理をすることが必要なのかを学ぶ。自己分析と、現時点での自己管理能力について知る。(プロフィールと自己紹介含む)
第2回	社会規範の種類を知る	社会規範の定義と種類を知る。他者の知識や意見を聞きながら視野を広げる。
第3回	自己管理能力の向上について	事例をもとに他者と意見交換することで自らの課題等に気づく。
第4回	自己モニタリングスキルについて	自己モニタリングとは何か。その基礎を学ぶ。経験したことを他者と意見交換する。
第5回	自己効力感と自己調整について	自己効力感の基礎と自己調整学習について学ぶ。
第6回	人間の三大欲求と自己管理能力について	三大欲求について学び、自己管理能力の向上を図るための方策をグループワークを通して学ぶ。
第7回	インクルーシブ教育システムについて	インクルーシブとは何か、障害児者の理解とPT、OTの使命について理解する。障害者と関わった経験を発表したり意見交換をしたりする。
第8回	コミュニケーション能力を高める1	新しいグルーピングを編成して、テーマに基づく協議を進める。
第9回	コミュニケーション能力を高める2	新しいグルーピングを編成して、テーマに基づく協議を進める。
第10回	価値観について	多様な価値観を知り、尊重することの大切さを学ぶ。
第11回	成人年齢について	令和4月1日付けで施行された法令を理解、各グループで議論する。
第12回	講義時に指定する	アンガーマネージメントを知り、自己管理能力を高める方法について学ぶ。
第13回	各事例によるGW発表とディベート1	グループごとに成果を発表する。
第14回	各事例によるGW発表とディベート2	グループごとに成果を発表する。
第15回	各事例によるGW発表とディベート3	グループごとに成果を発表する。(本講義のまとめ)

テキスト・参考書	参考資料：自己調整学習の実践、シャク,ディル.秋場大輔　訳、北大路書房　2007年、（3672円）
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	グループワーク課題10%、レポート30%、最終筆記試験60%により評価する。
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	リハビリテーション学の学習行動能力の向上には、本科目は重要である。履修学生は、本科目の基礎知識を理解するよう予習と復習が大切である。この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示された内容の学修）が必要である。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	人間関係論	担当教員名	市川 季夫
学年 開講時期	１年　前期	授業の方法	講義
単位数	２単位	必修/選択	必修
授業の概要	人間関係の意義、社会的相互作用について学ぶ。人間の発達・成長・成熟に関与している人間関係についての基礎的理論を学ぶ。人間を人との関係で生き、成長する存在として捉え、人間理解・対人関係の持ち方、人間関係を創りあげる能力を養う。人間関係を円滑に保つ技法について学び、自己理解と良好な対人関係について理解を深め、リハビリテーション職になるための土台をつくる。グループディスカッションや演習などを取り入れながら講義を展開する。課題に対するフィードバッ方法/毎回振り返り表を記入しコメントを入れる。必要に応じ講義中にフィードバックを行う。		
到達目標	①人間を自然的、社会的な存在として理解する。②他者と自己の関係を学ぶ。③人間関係を築く技法を学ぶ。④看護場面における人間関係を学ぶ。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	人間関係の中の自己と他者	保健医療の専門職として、人間関係についての概念や理論、スキルを学ぶ意味を考える。
第2回	対人関係と役割	人間関係の成立について学び、その進展と維持、さらに崩壊について学ぶ。
第3回	態度と対人行動	人間の行動に影響する要因。人の攻撃性の理由と抑制について学ぶ。
第4回	集団と個人	集団が個人の意思決定や行動に与える影響について学ぶ。
第5回	コミュニケーション	人間関係を形成するための基本的手段であるコミュニケーションについて学ぶ。
第6回	カウンセリングと心理療法	カウンセリングや心理療法の保健医療への応用について学ぶ。
第7回	コーチング	コーチングでは、理論とスキルを理解し、対人援助への応用を学ぶ。
第8回	アサーティブなコミュニケーション	アサーティブコミュニケーションでは、理論とスキルを理解し、対人援助への応用を学ぶ。
第9回	保健医療チームにおける人間関係	保健医療におけるチームの特性を学ぶ・チーム医療、多職種連携の意義を理解する。
第10回	患者を支える人間関係	患者と医療者の関係を理解する。両者の相互作用を評価する方法を学ぶ。
第11回	家族を含めた人間関係	患者を含めた家族も、医療の対象である。近代家族とそのゆらぎを理解する。
第12回	講義時に指定する	様々な利害関係を持つ人間集団である地域の力を評価し、障碍等の有無にかかわらず、住み慣れた地域で暮らせる条件を考える。
第13回	「きく」技術 ①	ロールプレイ　「家族が非協力的な事例」事例紹介・事例理解
第14回	「きく」技術 ②	ロールプレイ　「学生によるプレイ」「講師によるプレイ」
第15回	まとめ	見通しの持てる折り合いのつけ方

テキスト・参考書	教科書：石川　ひろみ著者代表「人間関係論」　医学書院　2018第3版 参考書：
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントも使う。
評価方法	定期試験　８０％、グループワーク・演習２０％
オフィスアワー	
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	コミュニケーション論	担当教員名	國澤 英雄【実務該当教員】
学年 開講時期	１年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	医療のあらゆる局面で最も大事なものはコミュニケーション能力である。本講座では様々な医療の現場で生起するコミュニケーション場面を取り上げ、医療従事者が患者・家族、他の医療従事者とどのようにコミュニケーションすべきかの理論的に、かつ事例を示しながら解りやすく解説する。そして川越胃腸病院を取り上げ、コミュニケーションと心の交流について解説する。さらに本講座では、講義でだけではなくグループ討議、レポート作成を適宜織り込み、より深い理解を得て、実際の医療現場で役立つ人材の育成を図る。		
到達目標	[1]ヘルス・コミュニケーションの全体像と関連要因を理解し、コミュニケーションに反映できる [2]医療者と患者・家族、医療者と医療者、患者と家族のコミュニケーションを理解し適切に対応できる [3]様々な場（面接、小集団、対立）のコミュニケーションの理論と方法を理解し、適切に対応できる [4]コミュニケーションの根底は、患者を思う心、信頼関係にあることを理解し患者満足の本質を知る		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	ヘルス・コミュニケーション序論	コミュニケーションの定義、コミュニケーション・モデル、健康関連モデル
第2回	医療のコミュニケーション関連要因	共感・支配・信頼・自己開示・確認・要約
第3回	医療の人間関係のコミュニケーション	医療者と患者・家族の関係、医療者と医療者の関係、患者と家族の関係
第4回	医療の場での非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションの重要性・特性・種類
第5回	医療の場における面接	面接の定義、面接の形式、面接の段階、面接でのコミュニケーション
第6回	医療における小集団コミュニケーション	小集団コミュニケーションの定義、医療集団の種類、小集団の構成要素、小集団の段階
第7回	医療の場における対立とコミュニケーション	対立の定義・種類、対立解決へのコミュニケーション
第8回	医療のコミュニケーション事例	川越胃腸病院を取り上げ、医療者と患者・医療者と医療者の心の交流とコミュニケーションを考察する

テキスト・参考書	グレクサにて配信する
学修方法	各テーマについての宿題を出すので、それを必ず提出すること。
評価方法	講義に出席率（40%）、レポート提出率・内容評価（60%）
オフィスアワー	講義時に指定する
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　総合科学科目		
授業科目名	健康と運動（体育）	担当教員名	青崎浩士、石塚和重【実務該当教員】
学年 開講時期	１年次　前期	授業の方法	演習
単位数	１単位	必修/選択	必修
授業の概要	体を動かすことは、人間にとって本能的欲求であり、心と体を快適・爽快にし、身体機能の維持向上や代謝、内分泌、自律神経などの恒常性ホメオスタシスを正常に保つために必要不可欠な機能維持方法である。超高齢社会にあっては、毎日無理なく、バランス良く正しい方法で運動を生活に取り入れることが重要であり、本科目ではスポーツ医・科学と健康についての基礎知識を学習するとともに、ラジオ体操やスポーツ等の実践を通じて、生涯に亘って健康の保持増進を図る方法を学ぶ。		
到達目標	１　スポーツ医・科学と健康について理解する。 ２　ラジオ体操やスポーツの実践及びトレーニングのための基礎知識を習得し、健康の保持増進を図る。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	本講義の目的・意義及び授業展開について
第2回	運動が生体に与える影響	運動のメリットおよびデメリット
第3回	運動とエネルギー代謝	無酸素性および有酸素性エネルギー供給機構
第4回	運動と運動器系	運動に伴う骨の増強や筋力の増強
第5回	運動と呼吸・循環①	呼吸器系と酸素摂取量
第6回	運動と呼吸・循環②	循環器系にかかる負荷と循環器系の適応
第7回	運動とホルモン	運動により変化するホルモン
第8回	障害者スポーツ①	ボッチャ
第9回	障害者スポーツ②	ボッチャ
第10回	障害者スポーツ③	ボッチャ
第11回	障害者スポーツ④	ボッチャ
第12回	講義時に指定する	ボッチャ
第13回	運動の実践①	ラジオ体操の歴史と実践
第14回	運動の実践②	ストレッチング，コンディショニング
第15回	運動の実践③	ロコモティブシンドローム

テキスト・参考書	別途指示する。
学修方法	講義を主体とし、実技演習については個別対応とする。
評価方法	出席・授業態度50%、各講義ごとに提出してもらうレポート50%の総合評価による。
オフィスアワー	授業後　15分間　研究室
備考・履修条件	10分以上の遅刻は欠席とみなし、3回の遅刻は1回の欠席とみなす。出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	解剖学	担当教員名	髙井 良招【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	人体を構成する運動器（骨・筋・靭帯など）、脈管、内臓、神経、感覚器系、及び組織学や発生学について学ぶ。器官を形成する組織と個体発生、系統発生について理解する。個々の器官・器官系について基本的な構造と機能、及びそれらの器官系から成り立っている人体の構造と機能を理解する。また医学における解剖学の役割・解剖学の歴史について学び、各臓器（呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器・内分泌器の諸器官系など）の機能について理解を深めるための講義を展開する。		
到達目標	1)各器官の形態と機能の概略を説明できる。 2)運動器、神経系、各臓器の構造と機能について理解できる。 3)医療の学習、臨床で必要となる解剖学用語を説明できる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	概説	解剖学とは、器官の発生、組織
第2回	骨学①　形態	頭蓋の骨、顔面の骨
第3回	骨学②　形態	体幹の骨、脊柱と椎間、胸郭の骨
第4回	骨学③　形態	上肢帯の骨、自由上肢骨
第5回	骨学④　形態	下肢帯の骨、自由下肢骨
第6回	関節①　形態と機能	頭蓋と脊柱の関節とそれ等の靭帯
第7回	関節②　形態と機能	上肢の関節（上肢帯、肩、肘、手）とそれ等の靭帯
第8回	関節③　形態と機能	下肢の関節（下肢帯、股、膝、足）とそれ等の靭帯
第9回	関節④　形態と機能	骨盤（腸骨、恥骨、坐骨、仙骨）とそれ等の靭帯
第10回	筋学①　形と分類と人体部位別の筋	筋の形状分類、頭頚部の筋の形態と機能的特徴
第11回	筋学②　人体部位別の筋	体幹、胸腹部の筋の形態と機能的特徴
第12回	講義時に指定する	上肢（上肢帯、肩、肘、手）の筋の形態と機能的特徴
第13回	筋学④　形態と機能	下肢（下肢帯、股、膝、足）の筋の形態と機能的特徴
第14回	中枢神経①　脳の構造	脳の血管、大脳、小脳の構造と機能、皮質の細胞層
第15回	中枢神経②　脳の構造	間脳、大脳基底核、大脳辺縁系の構造と機能
第16回	中枢神経③　脳の構造	中脳、橋、延髄の構造と機能
第17回	中枢神経④　伝導路と神経核	求心性・遠心性神経路
第18回	脳神経　運動・知覚・自律神経	神経核・神経路・皮質領域とその機能
第19回	脊髄神経①　頚神経と頚神経叢	知覚性と運動性、副交感性と交感性の神経とその分布
第20回	脊髄神経②　頚神経と腕神経叢	鎖骨上・下部の神経で胸・肩部・上肢に分布する神経
第21回	脊髄神経③　胸神経と腰神経・腰神経叢	肋間神経、神経叢の構成と腹部・大腿に分布する神経
第22回	脊髄神経④　仙骨神経と仙骨神経叢	神経叢の構成と大腿・下腿・足に分布する神経
第23回	自律神経①　交感神経と幹神経節	脊髄側角の細胞と白・灰白交通枝、その機能

第24回	自律神経②　副交感神経	頭仙系と脊髄副交感系、その機能
第25回	内臓学①　呼吸器	呼吸機能に関係する臓器の形態とその機能
第26回	内臓学②　循環器	心臓と脈管系の形態とその機能
第27回	内臓学③　消化器	消化機能に関係する臓器の形態とその機能
第28回	内臓学④　泌尿器・性器	尿生成・排泄に関係する臓器の形態とその機能、種族の継続
第29回	感覚器とその神経①　形態と機能	嗅覚・味覚・視覚器の構造とそれ等の神経と機能
第30回	感覚器とその神経②　形態と機能	聴覚・体平衡器の構造とそれ等の神経と機能
テキスト・参考書	教科書①：解剖学　第１判　出版社：羊土社　ISBN：978-4758102346　価格：6,160 円税込み 教科書②：プロメテウス解剖学 コア アトラス 第３版　出版社：医学書院　ISBN：978-4260035354 価格：10,450 円税込み	
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。	
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）	
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室	
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。	

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	解剖学演習	担当教員名	髙井 良招【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	各種標本等の観察によって解剖学講義で学んだ内容の理解を確実にする。組織標本の顕微鏡観察により、組織・器官を構成している各細胞の役割について理解する。ヒト脊椎動物の基本構造を学び、組織・器官が個体を構成する様子を観察する。さらに、骨や靭帯等の交連標本・分離標本を観察・スケッチすることで、その詳細構造を理解する。肉眼解剖学の基礎となる身体部位、体表面観察を行った後、人体解剖見学によって行い更に理解を深める。		
到達目標	1)筋の付着部となる部分の骨の構造について説明できる。 2)関節の構造と靭帯について説明できる。 3)脳・内臓器を容れる形態構造について理解できる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	組織標本の観察	組織標本を顕微鏡で観察する。
第2回	骨①　形態と骨交連の観察　頭蓋	頭蓋骨について交連標本を観察スケッチし、名称を記載する。
第3回	骨②　形態と骨交連の観察　顔面	顔面骨について交連標本を観察スケッチし、名称を記載する。
第4回	骨③　形態と骨交連の観察　椎骨	頚椎、胸椎、腰椎、仙椎、尾椎について分離骨を観察スケッチし、名称を記載する。
第5回	骨④　形態と骨交連の観察　脊柱と胸郭	脊柱と胸郭を分離・交連の両標本で観察し理解する。
第6回	骨⑤　形態と骨交連の観察　上肢	上肢帯、自由上肢骨、上肢関節複合体の基本について、分離骨を観察スケッチし、名称を記載する。
第7回	骨⑥　形態と骨交連の観察　下肢	下肢帯、自由下肢骨、下肢関節複合体の基本について、分離骨を観察スケッチし、名称を記載する。
第8回	骨⑦　骨盤の構造　骨の連結	腸骨・恥骨・坐骨について、交連標本を観察スケッチし、名称を記載する。
第9回	関節①　関節の機能と靭帯　上肢帯	交連標本を動かし、上肢帯、自由上肢運動として関節複合体の構造と靭帯を理解する。
第10回	関節②　関節の機能と靭帯　下肢帯	交連標本を動かし、下肢帯、自由下肢運動として関節複合体の構造と靭帯を理解する。
第11回	骨盤と股関節の機能	体幹の支持と歩行運動として関節複合体の構造を理解する。
第12回	講義時に指定する	交連標本を利用し、脳・内臓器を容れる形態構造を理解する。
第13回	実習ガイダンス	実習日程、実習着、実習態度、注意事項を確認する。
第14回	上下肢の解剖見学	上下肢の筋、関節、神経の構造観察。
第15回	体幹、頭頚部の解剖見学	脳、脊髄の外側面の構造観察。胸腔・腹腔内蔵器の位置関係と外観の構造観察。

テキスト・参考書	教科書①：解剖学　第１判　出版社：羊土社　ISBN：978-4758102346　価格：6,160 円税込み 教科書②：プロメテウス解剖学 コア アトラス 第３版　出版社：医学書院　ISBN：978-4260035354 価格：10,450 円税込み
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	機能解剖学	担当教員名	髙井 良招【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	四肢、体幹の骨、筋、神経の役割について理解し、理学療法、作業療法の実践で役立てることができることを目的とする。主に四肢、体幹の骨、筋、神経について機能解剖学の観点より講義する。運動時の主要な力の発現器としての骨関節、筋神経の個々についての理解を深める。関節運動では、筋肉から生み出された力を「ベクトル」と「トルク」の発生として捉え、さらに「力の合成、分解」関係して結び付け、人体の運動と力学的構造を理解する。		
到達目標	①生体運動器官の構造形態とその力学的機能が説明できる。 ②「ベクトル」と「トルク」の発生機構と「力の合成、分解」について説明できる。 ③体幹、上肢、下肢の運動軸について理解し、把握、歩行時の軸変化の構造について理解できる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	概説	機能解剖学とは何か、その意味するもの
第2回	協議の運動学	並進、回転と骨運動、関節の構造と包内運動
第3回	運動力学①　筋骨格系と力	「力」の発生と「ベクトル、運動トルク」の解釈
第4回	運動力学②　筋と関節の相互作用	3種類の「てこ」、回転軸と「トルク」
第5回	骨と関節①　上肢関節複合体	形態と機能とその統合運動
第6回	骨と関節②　下肢関節複合体	形態と機能とその統合運動
第7回	脊柱と頭蓋の関節複合体	脊柱と頭蓋の相互運動機能
第8回	筋の形態①　収縮機能と支配神経	収縮機構と支配神経の終末装置と筋の関係
第9回	筋の形態②　運動と「トルク」	筋の「力」、「等尺性筋力ー内的トルク」、筋の疲労
第10回	力源としての筋①　張力曲線	自動的・他動的な「求心性」「遠心性」「等尺性」な力
第11回	力源としての筋②　運動	「力」と「速度」の関係とその解釈
第12回	講義時に指定する	自由身体ダイヤグラム、「力」の合成、分析、作図
第13回	身体支持①　頭蓋の支持と軸としての脊柱	頭蓋支持の柱と頭部の運動、体幹の軸と運動軸の柱の構造
第14回	身体支持②　物を掴む上肢	上肢の運動軸と把握の支え機能の軸変化
第15回	身体支持③　歩行機能の下肢	体重移動と歩行の軸変化

テキスト・参考書	教科書：運動学　第１判　出版社：羊土社　ISBN：978-4758102445　価格：4,400円税込み 参考書：プロメテウス解剖学 コア アトラス 第３版　出版社：医学書院　ISBN：978-4260035354 価格：10,450円税込み
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	機能解剖学演習	担当教員名	髙井 良招【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	解剖学で学ぶ知識をさらに深め発展させて、骨格系、筋肉系、神経系など各構成要素と運動制御の関係を学び機能解剖学として体系づける。具体的には、分離標本を用いて全身の骨格の組み立てを行い全体像の理解をした上で、交連標本を用いた観察と実際の表面解剖を通して、骨、筋肉、神経の触診を演出する。また、脊柱・胸郭・上肢帯・下肢帯の連結と機能について学ぶ。臨床上重要な部分については、詳細な解剖学的理解が得られるよう教授する。		
到達目標	①分離標本を用いて、全身骨格を組み立てられるようになる。 ②各関節の形態と機能と運動制御について理解できる。 ③脊柱・胸郭・上肢帯・下肢帯の連結の形態と機能について理解できる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	骨格概要	分離骨標本を用いて、全身の骨格を組み立て全体像を理解する
第2回	上肢の関節複合体①	肩関節の形態と機能、運動制御
第3回	上肢の関節複合体②	肘関節、前腕の形態と機能、運動制御
第4回	上肢の関節複合体③	手根と手の関節の形態と機能、運動制御
第5回	下肢の関節複合体①	股関節の形態と機能、運動制御
第6回	下肢の関節複合体②	膝関節の形態と機能、運動制御
第7回	下肢の関節複合体③	足根と足の関節の形態と機能、運動制御
第8回	体軸骨格の形態	脊柱の関節形態と機能
第9回	胸郭骨格の形態	胸骨・肋骨・胸椎の関節形態と機能
第10回	上肢帯	連結の形態と関節の構造と機能
第11回	下肢帯	連結の形態と関節の構造と機能
第12回	講義時に指定する	四肢並びに体幹を軸とした全身運動
第13回	神経①　上肢帯・自由上肢	交連標本を用いて神経の走行を確認する
第14回	神経②　下肢帯・自由下肢	交連標本を用いて神経の走行を確認する
第15回	脈管	交連標本を用いて上下肢・脳の脈管の走行を確認する

テキスト・参考書	教科書：運動学　第１判　出版社：羊土社　ISBN：978-4758102445　価格：4,400円税込み 参考書：金子丑之助著　日本人体解剖学上・下巻　改訂20版　南山堂 　教科書は1年次、機能解剖学にて教科書として購入済みであり、参考書は1年次、解剖学にて教科書として購入済みです。いずれも、新たに購入する必要はありません。
学修方法	
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生理学Ⅰ	担当教員名	太田 美智男【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生理学は人体の機能、つまり働きと役割を学ぶ分野であり、解剖学や生化学と並んで人体のしくみを理解する上で最も基礎的な知識となる。人体そのものを1つのシステムとして考え、臓器固有の機能、動物特有の神経回路や感覚のしくみ、さらに最新の治験に基づく細胞レベルや分子レベルから見た生理機能など、非常に広範囲な領域を異なった観点から学修する。生理学をより良く理解するため、生理現象の規範となっている物理化学的な基礎知識についてもこの中で講義する。		
到達目標	① 細胞の機能を説明できる。 ② 刺激の受容、興奮伝導、筋収縮の流れについて説明できる。 ③ 自律神経の構造と機能を説明できる。 ④ 血液、心臓、肺、腎臓の機能、ホルモンの働きを説明できる。 ⑤ 内分泌に関わる部位とホルモンについて説明できる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	生体の構造、細胞	生体の恒常性、刺激と興奮、刺激と適応、細胞の構成元素、細胞の構造と機能およびその調節
第2回	神経生理①	感覚神経と運動神経の構造と機能、脳および神経系諸器官の基本的構造と要素
第3回	神経生理②	静止膜電位と活動電位、興奮伝導、シナプスの機能と分類、シナプスにおける伝達メカニズム、ニューロン回路の種類
第4回	自律神経系	自律神経の構成と作用および受容体、摂食・飲水の調節、概日リズム、自律神経反射
第5回	運動生理①	運動ニューロン、脊髄の構造、神経筋結合部の構造と機能、骨格筋・平滑筋・心筋の機能、筋の収縮機構
第6回	運動生理②	脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質の構造と機能、反射、随意運動と不随意運動、運動の調節と制御
第7回	感覚生理①	体性感覚・特殊感覚・内臓感覚、刺激から認知に至る神経機構、末梢の感覚受容機構と伝達メカニズム、１次体性感覚野における処理機構、体性感覚の統合機構、痛覚の神経機構
第8回	感覚生理②（特殊感覚）	視覚器の構造と伝導路、眼の屈折力と調整作用、暗順応、視覚物質と光受容、嗅覚と味覚の受容器、聴覚器の構造、音の伝導と伝導路、平衡感覚器の構造と機能、前庭反射の神経機構
第9回	脳と認知・行動	大脳皮質の機能局在、連合野の機能、大脳辺縁系と視床下部の機能、運動と感覚の統合機構、情動・学習・記憶をつかさどる脳の部位と記憶のメカニズム
第10回	脳波と睡眠、体温調節	脳波の分類と意識水準、脳波の睡眠段階区分と睡眠の生理学的変化、覚醒と睡眠の調節、サーカディアンリズム、体温調節
第11回	血液・体液と機能	血漿成分、血液細胞の働き、血液凝固の仕組みと凝固異常、鉄代謝、浸透圧
第12回	講義時に指定する	心臓の構造、興奮伝達と心筋収縮、自律神経系による調節、心電図、血液循環と調節
第13回	呼吸と肺の働き	肺の構造、肺循環とガス交換、血液ガスの運搬、呼吸の調節
第14回	腎機能と排尿	腎臓の構造と機能、糸球体濾過と尿細管における再吸収、排尿とその障害
第15回	消化と吸収	消化管の構造と食物の輸送、嚥下機能、胃、小腸、大腸における各栄養素の消化吸収機能、排便

テキスト・参考書	テキスト：佐々木 誠一編集 生理学要点整理ノート改訂第2版　羊土社 参考書　：大地陸男著　生理学テキスト第8版　文光堂 下正宗他編集　コアテキストⅠ人体の構造と機能第2版　医学書院
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	金曜日　12:10～13:00　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生理学Ⅱ	担当教員名	太田 美智男【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生理学Iの総論講義から継続して、中枢神経系、末梢神経系、自律神経系について疾患を例にあげてそれぞれの機能を復習しながら具体的にイメージできるように講義する。さらに人体の各機能について総論の講義を発展、具体化して、それぞれの関連する臓器の働きを基に各種疾患の例を挙げて説明する。すなわち、血液の機能とその障害、循環系の機能とその障害による疾患、呼吸器の機能と障害、消化器の生理機能とその障害による疾患、尿路系の機能と障害、代謝系の概要とその障害による疾患、各種ホルモンの働きとその障害による疾患および生殖機能との関連、神経系ならびに複数の臓器の機能が関わる血圧の調節、血液の酸／塩基平衡の調節ならびに電解質バランス、生体防御機構などについて、国家試験問題などもとりあげて理解を深めるように講義する。		
到達目標	①神経系の働きとその障害による症状を説明できる。 ②各器官、臓器の働きとその障害による症状の病態生理を説明できる。 ③複数の臓器の機能およびホルモンが関わる生体の調節、例えば血圧、血液の酸塩基平衡、電解質バランスなどについて説明できる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	中枢神経系の働きとその障害	体性神経の神経路の確認、脊髄の機能と障害、脊髄反射、脳幹の構造・主要機能と障害、大脳皮質の機能局在の確認とその障害
第2回	末梢神経系の働きとその障害	脳神経のそれぞれの機能：眼球運動、味覚、聴覚・平衡覚、交感神経・副交感神経機能などと機能障害、体性神経系：感覚機能、運動機能と障害
第3回	自律神経系の主要な機能とその障害	交感神経系の機能、副交感神経系の機能、関与する神経伝達物質、循環系および呼吸に対する自律神経の作用と障害による病態生理、排泄における神経系の機能と障害
第4回	心機能とその異常	心臓の拍出機能と心不全、心筋の特徴と疾患、心臓の刺激伝導系とその異常・不整脈
第5回	末梢血管の機能と物質交換、血圧の調節	動脈の粥状硬化による閉塞・梗塞、微小循環、血管透過性、循環の調節物質、心・血管系への自律神経の作用による血圧調節、
第6回	肺の機能と障害	肺機能の測定、肺の拘束性障害および閉塞性障害、肺機能の低下、異常呼吸
第7回	栄養とエネルギー代謝	エネルギー代謝・糖新生と調節・糖尿病、アミノ酸代謝と尿素生成・排出、脂質代謝、核酸代謝、運動と体力
第8回	エネルギー代謝における肝臓、膵臓の機能	肝臓の代謝機能とその異常、胆汁の作用と分泌障害による病態、膵臓の代謝における作用と障害
第9回	腎臓の機能と障害	糸球体濾過機能と障害、慢性腎不全による機能障害、腎性高血圧、電解質および水の再吸収と排泄、ホルモン・RAA系による血圧の液性調節の仕組み、降圧剤の作用
第10回	血液の酸塩基平衡の調節と障害	肺のガス交換と呼吸機能異常による血液pHへの影響、腎臓尿細管における炭酸水素イオンの吸収・排出による血液pHの維持と変動、ケトアシドーシス
第11回	ホメオスターシス、視床下部、下垂体ホルモンの作用と分泌の調節	視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモンの働きと調節、ネガティブ・フィードバック、下垂体後葉ホルモンの作用
第12回	講義時に指定する	甲状腺ホルモンの機能と分泌異常、副腎皮質ホルモンのそれぞれの機能と分泌異常、副甲状腺ホルモンによるカルシウム代謝の制御、副腎髄質ホルモンの作用
第13回	プロラクチン、ゴナドトロピンと性ホルモンの機能	プロラクチン、ゴナドトロピンの作用、性ホルモンの生理作用と性周期、性ホルモン分泌異常症の病態、男性・女性の生殖機能、妊娠と分娩
第14回	エイコサノイド（プロスタグランジン類）の作用	プロスタグランジン類の生合成とそれぞれの作用、COX阻害剤
第15回	生体防御機構	侵襲に対する生体反応、炎症、免疫反応の生理的意義と過剰反応による疾患の病態、炎症性サイトカインの作用

テキスト・参考書	教科書：佐々木 誠一編集 生理学要点整理ノート改訂第2版　羊土社 参考書：下正宗他編集　コアテキストⅠ人体の構造と機能第2版　医学書院
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	月曜日　16:10～16:30　研究室、金曜日　12:10～12:50　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生理学演習	担当教員名	太田 美智男【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生体の機能とその発現メカニズムを学ぶため、我々自身の体を材料に、ヒトの反射・心電図・血圧・呼吸・感覚等に関する演習を行う。生理学Ⅰ・Ⅱで得た知識をより深く理解するため、演習を通し、生体に生じる現象を観察し、メカニズムを考え仮説について検証を行う。また、基本的な測定法・記録法・データ処理の仕方・結果のまとめ方を学ぶほか、ヒトを材料に使うときの倫理等にも留意し、今後につながる実験者としての態度を養うことをめざす。		
到達目標	①各演習が生理機能の何を学習するために行っているか、説明することができる。 ②記録したデータを集計し、自身の考えを述べることができる。 ③演習内容と臨床との関連性を理解することができる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	身体の推定と実測（基礎代謝）、ホメオスタシス（体温）①	身体状況に関する知識の確認と体温計測・身体計測を行いホメオスタシスと基礎代謝について理解する
第2回	身体の推定と実測（基礎代謝）、ホメオスタシス（体温）②	
第3回	自律神経①	交感神経と副交感神経機構について理解する 暗所での対光反射、視覚刺激による瞳孔拡大、恐怖刺激による立毛筋の収縮、発汗の観察を行う
第4回	自律神経②	
第5回	体性感覚①	重量感覚を通じてウェーバーの法則、フェフィナーの法則、スティーブンスの法則を理解する 2点識別覚の測定を行い、弁別閾値の分布・違い、弁別能の順位を調べる。
第6回	体性感覚②	
第7回	聴覚と平衡感覚	音の伝導に関する観察を行う 視覚を制限することによる平衡感覚の変化、半規管への刺激と反応の変化を観察する
第8回	聴覚と平衡感覚	
第9回	視覚と嗅覚	視野、色覚、マリオットの盲点について演習する 嗅覚刺激下での心理的変化について演習する
第10回	視覚と嗅覚	
第11回	呼吸①	正常な呼吸機能の確認と肺機能検査を行い、スパイロメトリーについて理解する
第12回	講義時に指定する	
第13回	心臓と循環①	安静時と姿勢変換時、運動前後、バルサルバ試験時の血圧、心拍数、動脈血酸素分圧の変動について理解する 心電計を用いて、安静時と姿勢変換時、運動前後の変動について理解する
第14回	心臓と循環②	
第15回	心臓と循環③	

テキスト・参考書	教科書：杉晴夫著　コメディカルのための生理学実習ノート改訂第2版　南江堂 参考書：大橋敦子監修　生理学実習NAVI第2版　医歯薬出版株式会社
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テスト・提出物の成績（100%）
オフィスアワー	月曜日　12:10～12:40、金曜日　12:10～12:40　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	運動学Ⅰ	担当教員名	酒向 俊治・小澤 敏夫・原 和子【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動学は、身体運動の科学であり、理学療法、作業療法を実務とする為には必要不可欠の学問である。身体構造理解の基礎となる解剖学、身体機能を学ぶ生理学、そして身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることを理解する。本講義では、筋骨格系、関節構成体構造とモーメントやテコの視点から身体運動、動作、行為が効率良く合理的システムに基づいて行われているか学ぶ。また運動学的分析の手法を学び，人間の動作を客観的に分析できることを目指す。身体運動の理解に必要な物理学や生体力学の知識を整理し生体の構造や機能について教授する。		
到達目標	運動学に多く使われる用語を理解し使用できるようになる。運動力学の基礎、身体の運動時、動作時の特徴を理解し、実践の場における病態説明、デモンストレーションが出来るようになる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、評定方法の他、運動学の重要性について学ぶ
第2回	運動学総説	解剖学、生理学の基礎医学ならびに理学療法、作業療法との関連について学ぶ
第3回	身体運動Ⅰ	運動学を理解するための必要な身体における運動面、運動軸について学ぶ
第4回	身体運動Ⅱ	運動学を理解するための必要な身体各部の運動方向の名称について学ぶ
第5回	運動を構成する要素（上肢帯・自由上肢）①（骨）	身体運動の効果器としての骨の機能について学ぶ
第6回	運動を構成する要素（上肢帯・自由上肢）②（関節）	身体運動の効果器としての関節の構造と機能について学ぶ
第7回	運動を構成する要素（下肢帯・自由下肢）①（骨）	身体運動の効果器としての骨の機能について学ぶ
第8回	運動を構成する要素（下肢帯・自由下肢）②（関節）	身体運動の効果器としての関節の構造と機能について学ぶ
第9回	生体力学の基礎Ⅰ（モーメント）	運動学理解を深める為、運動時の筋活動および関節に生じるモーメント（トルク）について学ぶ
第10回	生体力学の基礎Ⅱ（平衡と安定）	運動学理解を深める為、運動時の平衡条件および安定性について学ぶ
第11回	生体力学の基礎Ⅲ（ニュートン力学）	ニュートン力学の基礎、仕事とエネルギー消費および身体とてこについて学ぶ
第12回	講義時に指定する	姿勢とその制御機構について運動学的に理解する
第13回	歩行	歩行動作時の運動学的、運動力学的分析方法について理解する
第14回	異常歩行と走行	高齢者、異常病的歩行の特徴、その要因、走行時の運動効率性について理解する
第15回	総括、質疑	振り返り（グループ学習）

テキスト・参考書	教科書：「基礎運動学」中村隆一（医歯薬出版）ISBN 978-4-263-21153-3 参考書：「臨床運動学」中村隆一（医歯薬出版）ISBN 978-4263211342
学修方法	テーマごとに座学形式で行う。
評価方法	定期試験（筆記試験）100％
オフィスアワー	水曜日　16:20～17:20　研究室
備考・履修条件	（予習）　運動学は、解剖学、生理学、物理学（力学）の知識が無ければ、理解が進まない。 毎回、授業内容に応じた解剖学、生理学、物理学（力学）の復習をしてくること。 例：肩関節の授業の前は、肩関節の解剖の復習をしてくる。　（復習）　授業の翌週に必ず小テストを行うので、授業での学習内容が身に付くよう復習すること。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科		
授業科目名	運動学Ⅱ	担当教員名	酒向 俊治・小澤 敏夫・原 和子【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	人間の身体的構造や、各器官組織の生理的、生化学的反応を理解した上で、実際の人間の運動、行動への応用について理解する。解剖学、生理学に加え、力学を中心にした運動法則に基づいて人間の体における基本的な運動から応用された動作や行為にいたるまでの仕組みを理解する。人間の運動を構造的、立体的に理解し、姿勢制御や運動学習といった神経生理学的な観点からも，運動がどのように行われ，学習されているのか，その理解を深める。また、運動療法の効果や日常生活活動の分析などを学ぶ。		
到達目標	身体運動の仕組み、日常生活の行為について基礎的な専門用語を用いて説明できる。 実習課題についてレポートにまとめることができる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション、生体力学	てこの原理、モーメント
第2回	上肢帯と上肢の運動(1)	肩複合体の運動学、肩甲上腕リズム
第3回	上肢帯と上肢の運動(2)	肘関節、前腕の運動学
第4回	上肢帯と上肢の運動(3)	手関節、手指の運動学
第5回	下肢帯と下肢の運動(1)	股関節の運動
第6回	下肢帯と下肢の運動(2)	膝関節の運動
第7回	下肢帯と下肢の運動(3)	足関節の運動
第8回	運動制御	フィードバック、フィードフォワード制御
第9回	体幹の運動学	脊柱、体幹の運動学
第10回	姿勢と歩行	姿勢、正常歩行と異常歩行、走行
第11回	歩行周期と筋活動、重心移動	通常歩行の観察、分析体験する
第12回	講義時に指定する	応用歩行の観察、分析体験する
第13回	運動発達	発達と発達分析
第14回	運動学習	運動学習の種類と諸理論
第15回	運動とエネルギー供給	運動時のエネルギー代謝と運動処方

テキスト・参考書	教科書：「基礎運動学」中村隆一（医歯薬出版）ISBN 978-4-263-21153-3 参考書：「臨床運動学」中村隆一（医歯薬出版）ISBN 978-4263211342
学修方法	事前に教科書の指定範囲をよく読み、実習の目的・準備・手順・結果のまとめ方・考察のポイントについて理解し、実習当日の説明の際、不明な点について質問する(30分程度)。実習後は結果のまとめを速やかに行い、レポート作成にとりかかる(1時間程度)。
評価方法	小テスト（20%）、定期試験（筆記試験）80%
オフィスアワー	水曜日　16:10～17:00
備考・履修条件	欠席をしないように心がけてください。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	運動学演習	担当教員名	近藤 崇史【実務該当教員】、小池 孝康
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	運動学演習の基礎として、人間の体の仕組みと運動、解剖学、生理学、力学を再学習理解する必要がある。運動学Ⅰ・Ⅱの学習した電気生理学的、力学的、動作分析学的思考は本演習の理解を深める為に必要不可欠である。運動・動作課題に伴う体の動きを可視化し、また手で触れることを通じて運動と骨格筋の働きについて理解を深める。また、得られたデータから結果をまとめ、グループ討議を行い解釈しそれぞれの運動との因果関係を学習するプロセスを経験する。		
到達目標	１．運動の位置づけができるようになる ２．筋骨格系の仕組み及び機能を説明できるようになる ３．演習内容と臨床との関連を理解する		
授　業　計　画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	上肢帯および上肢の関節運動①	肩、肘、手関節のそれぞれの関節運動について学ぶ	
第2回	上肢帯および上肢の関節運動②	手指関節、手指の関節運動と巧緻性について学ぶ	
第3回	上肢帯および上肢の機能解剖	各ランドマークとそれらの触診について学ぶ	
第4回	下肢帯および下肢の関節運動	股、膝、足関節のそれぞれの関節運動について学ぶ	
第5回	下肢帯および下肢の機能解剖	各ランドマークとそれらの触診について学ぶ	
第6回	脊柱・体幹の関節運動	各関節運動について学ぶ	
第7回	脊柱・体幹の機能解剖	各ランドマークとそれらの触診について学ぶ	
第8回	筋力	モーメント、トルクについて学ぶ	
第9回	筋活動	筋電図とその解析方法について学ぶ	
第10回	姿勢	重心、アライメントについて学ぶ	
第11回	生体力学①	動作における身体の重心移動について学ぶ	
第12回	講義時に指定する	動作における重心位置と支持基底面の関係性について学ぶ	
第13回	動作分析	基本動作の分析について学ぶ	
第14回	歩行	歩行分析について学ぶ	
第15回	呼吸と循環	運動負荷試験における呼吸・循環応答を学ぶ	
テキスト・参考書	教科書：石川朗他編集　運動学実習　15レクチャーシリーズ　理学療法・作業療法テキスト、中山書店 参考書：中村隆一他著　基礎運動学第6版　医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20%）、定期試験成績（80%）		
オフィスアワー	当該科目授業日　12:20～13:00　16:20～17:30　研究室		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	生命倫理	担当教員名	太田 美智男【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	保健・医療・福祉システムが進展する中で、倫理に関する知識について学び、生命、人の尊厳を学ぶ。ヒトゲノム解析、ES細胞、iPS細胞の研究応用、クローン技術、脳死、代理母出産や凍結受精卵による妊娠出産などの生命技術は、人々に益をもたらす一方で複雑な生命倫理問題を生みだしている。生命技術が倫理や哲学と離れたところで一人歩きしてしまうと何が起こるか。ヒトはいつ人間となるのか、いつ死ぬのか、生命の質について学ぶ。また生命技術と生命医療の進歩が人類に何をもたらし、どのような方向に向かっているのかを学ぶ。		
到達目標	① 生命倫理、医療倫理、臨床倫理等の関連領域の理論の動向が理解できる。 ② 医療における倫理に関する規範・原則や指針について説明できる。 ③ 医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について説明できる。		
授　業　計　画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	生命倫理の原則	医の倫理から生命の倫理へ、ヒポクラテスの誓い、生命倫理の4原則	
第2回	健康と病気、診断、予防、治療と生命倫理	患者との距離、守秘義務、病気と健康、精神疾患、医療不信、予防、治療と生命倫理	
第3回	生殖医療と人工妊娠中絶	ハイリスク妊娠、周産期死亡、不妊治療、人工妊娠中絶と母性保護、親子関係、生殖医療のガイドライン、クローン技術、優生保護法	
第4回	移植医療と脳死	臓器移植、生体臓器移植、脳死判定、臓器移植法	
第5回	臨床試験（治験）と人体実験	臨床試験と倫理、統計的有意差、二重盲検試験、臨床試験におけるヘルシンキ宣言、EBMによる標準化、動物実験と動物愛護法	
第6回	遺伝子医療	遺伝子組み換え技術の医療への応用、ゲノム編集、遺伝子医療の問題点、	
第7回	安楽死	安楽死の定義、消極的安楽死、積極的安楽死、尊厳死、植物状態、判例、宗教と安楽死、リビングウイル、自己決定	
第8回	終末期医療と緩和ケア、インフォームドコンセント	終末期医療、緩和ケア、ホスピス、在宅で受ける緩和ケア、インフォームドコンセント、癌の告知	
テキスト・参考書	教科書：今井道夫著　生命倫理学入門（第３版）　産業図書 参考書：玉井 真理子・大谷 いづみ編　はじめて出会う生命倫理　有斐閣		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20%）、定期試験成績（80%）		
オフィスアワー	講義時に指定する		
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	人間発達学	担当教員名	平岡 翠【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	胎生期から成人に至るまで、人間の成長は人間の進化の縮図とも言われる。人間の成長における発達段階を理解することは、原始的な生体反応から成長し完成された生体活動に至るまでの過程を学修することである。様々な疾患によってもたらされる障害の克服のために、人間の発達段階を理解し、それを利用して理学療法・作業療法を展開させる場面も多い。人間の発達を系統発生と個体発生の両面から検討する。人類の起源と進化の問題にふれ、人間の身体の形態的特徴と行動様式について調べる。次に、個体発生の視点から、ヒト新生児の特異性と人間の子どもの成長期の特徴に着目し、人間の発達特性とその意義について学修する。		
到達目標	①人間発達学の対象領域について説明できる。 ②各期の発達について説明できる。 ③神経系、内部機能、身体機能の発達について説明できる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	発達概念	人間発達期の区分、発達に関する定義、発達の原則
第2回	発達理論	漸成的発達論と非漸成的発達論
第3回	発達検査	目的と方法、標準化された発達検査
第4回	姿勢反射と反応	原始反射の出現と消失(統合)
第5回	運動発達（0～3か月）	背臥位、腹臥位、座位、立位
第6回	運動発達（4～6か月）	背臥位、腹臥位、座位、立位
第7回	運動発達（7～9か月）	四つ這い位、立ち上がり、しゃがみ、伝い歩き
第8回	運動発達（10～12か月）	立位から歩行の発達過程、幼児の粗大運動発達
第9回	6歳（13～18か月含む）までの発達（姿勢反射・反応）	粗大運動発達、歩行と走行、非対称的両側活動、平衡反応、ADL機能（手指・摂食・言語・社会性）の発達
第10回	学童期の発達	学童期の特徴と心と身体の発達
第11回	思春期の発達	思春期の特徴と心と身体の発達（自己概念、第二次性徴、自我同一性の獲得）
第12回	青年期の発達	青年期の特徴と心と身体の発達
第13回	成人前期の発達	成人前期の特徴と心と身体の発達
第14回	成人後期・老年期の発達	成人後期・老年期の特徴と心と身体の発達
第15回	まとめ（グループにて発表）	人間発達のそれぞれの特徴とセラピストとしての関わり方についてまとめ発表を行う

テキスト・参考書	教科書：上杉雅之監修　イラストでわかる人間発達学　医歯薬出版　2015 参考書：森岡周　発達を学ぶ　協同医書出版　2015
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	病理学	担当教員名	川田 憲司【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	生体に起こる様々な病変や疾患が、どのような原因でおこり（病因）、どのような変化を生じ（病変）、どのように推移し（経過）、最後にどうなるか（転帰）など、いわゆる病変や疾患の本質をよく理解し、医療技術者として正しい知識を身につける。病理学を総論と各論に分けて学び、総論は疾患を①退行性病変（萎縮、代謝障害、壊死）、②循環障害、③進行性病変（肥大、増生、再生、化生、創傷治癒、異物処理）、④炎症、⑤腫瘍、⑥先天性異常の組み合わせとして理解し、各論で代表的な疾患を総論で学んだ知識を基に体系化する。		
到達目標	①様々な病因を理解する。 ②病因によって起こる病変、経過、転帰について理解する。 ③免疫など身体側の疾病に対する対応について理解する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	病理学とは、退行性変化	病理学と疾病の概要、病因による細胞･組織の障害の種類(壊死とアポトーシス･変性･萎縮)
第2回	物質代謝異常	脂質代謝異常、糖質代謝異常、たんぱく質代謝異常、アミロイドーシス、核酸代謝異常
第3回	進行性病変	細胞増殖と再生・化生・創傷治癒と骨折治癒、肉芽組織、異物の処理、肥大・過形成
第4回	循環障害①	体液循環、充血、うっ血、旁束循環、出血、血栓症、塞栓症、
第5回	循環障害②	虚血と梗塞、浮腫、ショック、高血圧
第6回	炎症①	炎症の原因と代表的症状、炎症の基本病変と仕組み、炎症細胞とケミカルメデイエーター
第7回	炎症②	炎症の経過的分類、急性炎症・慢性炎症および特異性炎の組織学特徴、炎症の全身への影響
第8回	免疫①	免疫系の役割、免疫応答の仕組みと免疫担当細胞の種類、抗体の種類と働き、補体の働き、アレルギー疾患、自己免疫疾患
第9回	免疫②・感染症	免疫不全症、移植免疫、がんと免疫、感染症と病原体の種類、感染臓器と病原菌
第10回	生活習慣病・老化	肥満と生活習慣病、肥満の病理学的変化、老化の仕組み、諸臓器の老化と病気、老化によるがんの発生、老年症候群
第11回	新生児の病理	正期産児の疾病、早産児の疾病
第12回	講義時に指定する	先天異常の原因・要因、染色体異常により先天異常、主な奇形の種類
第13回	腫瘍①	腫瘍の分類と命名法、腫瘍の肉眼的・組織学的な分類、腫瘍の発生と発育、悪性腫瘍の進展と転移
第14回	腫瘍②	腫瘍と宿主の関係、腫瘍の原因と発生メカニズム、腫瘍の疫学
第15回	主要臓器の疾患	主要臓器の代表的疾患のまとめ

テキスト・参考書	教科書：カラーで学べる　病理学　第５版　　NOUVELLE HIROKAWA 参考書：中島雅美・野口敦編　PT・OT基礎から学ぶ病理学ノート 医歯薬出版株式会社
学修方法	各テーマについての講義は教科書を基軸に、主要病変の肉眼的・顕微鏡的病変像のスライド投影を加えることで、病変をより体得しやすくする
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（15%）授業への積極的取み（５%)、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	感染防御と安全管理	担当教員名	太田 美智男 【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	コロナウイルス感染など、さまざまな微生物による感染症は依然として人類の脅威であり、特に高齢者や重症基礎疾患を持つ患者にとっては死亡原因となることもある。また現代の高度先進医療では手術や薬物治療など患者に侵襲性の高い治療を行うこともあり、それらの患者は易感染状態で感染症の危険にさらされる。したがって本講義では医療従事者に必要な微生物学及び感染症について講義するとともに、微生物学の知識を踏まえた適切な感染予防方法とその意義を講義する。また人が本来持つ感染防御機構である自然免疫（非特異的感染防御能）および獲得免疫（特異的感染防御機構）についてその概略を説明する。 さらに本講義では近年医療の現場で重要視されるようになった医療事故防止のための医療安全の取り組みについてその基本的考え方を説明し、リハビリテーションにおける運動負荷を伴う訓練のための安全管理ガイドラインと、実際に問題となる個々の患者の症状・病態について安全管理に基づいて講義する。さらに医療の現場で起こった主な医療事故の事例を提示し説明する。		
到達目標	①囚に感染を起こす主要なウイルス、細菌、真菌などについて、知識を持つ。 ②肺炎、尿路感染症、腸炎、敗血症、皮膚感染などについて、感染の成立過程とそれに対する人の反応の概略を知る。 ③感染症に対する人の非特異的感染防御機構である自然免疫および特異的感染防御機構である獲得免疫について理解する。 ④感染経路別感染予防策および消毒・滅菌、清潔操作について十分な知識を持つ。 ⑤医療安全の取り組みについて基本的考え方を理解し、起こりやすい医療事故について十分な知識を身につける。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	感染を起こす主要微生物	ウイルス、細菌、真菌、原虫、細菌毒素、感染症治療薬
第2回	感染経路別感染症の病態生理	肺炎、尿路感染症、腸炎、敗血症、皮膚感染などについて、それぞれの感染症の成立の概略と症状、炎症反応（局所反応及び全身反応）
第3回	自然免疫と獲得免疫	自然免疫、獲得免疫のメカニズムと感染予防、ワクチンによる免疫の獲得
第4回	標準予防策と感染経路別予防策	標準予防策の方法、接触感染予防策、飛沫感染予防策、空気感染予防策
第5回	消毒・滅菌、清潔操作	物理的消毒・滅菌法、化学的消毒・滅菌法、手洗い、手指・皮膚消毒法、医療機器消毒、環境消毒
第6回	医療安全管理	医療安全の考え方、ヒューマンエラー、医療安全教育、リスクマネージメント、ヒヤリハット・インシデントと報告。本人確認、チューブ管理、施設安全管理。職業感染予防、感染性廃棄物処理
第7回	運動負荷を伴う訓練のための安全管理	リハビリテーション医療における安全管理ガイドライン、バイタルサイン、疼痛などに対する対応、心肺機能、運動機能、めまい、精神・神経機能などと訓練
第8回	医療の現場で見られる医療事故	主な医療事故：院内感染、転倒、誤投薬、手術ミス、患者取り違え、その他。医療訴訟

テキスト・参考書	教科書：坂本史衣著　基礎から学ぶ医療関連感染対策改訂第3版　南江堂 公益社団法人日本リハビリテーション医学会　リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン第2版 参考書：医療情報科学研究所編　病気がみえるVol.6免疫・膠原病・感染症第2版　メディックメディア
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義時に指定する
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	臨床心理学	担当教員名	西牟田 祐美子【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	臨床心理学は、人の心の問題について心理学的な側面から人間理解と援助技法を用いて、対象者の社会的適応力や発達、自己実現を支援していく実践的な学問である。本講義では臨床心理学の役割、問題の分類、問題のアセスメント、心理療法について学習し、カウンセリングの面接技法を実践的な場面から学ぶ。さらに、心理的支援を要する精神疾患や各発達段階における心理的課題について理解し、保健医療分野、福祉分野など様々な領域における実践について学ぶ。		
到達目標	①防衛機制について説明できる。 ②心理検査の役割とその方法について理解する。 ③カウンセリングの理論、カウンセリングの面接技法を理解する。		

授　業　計　画		
回数	授業テーマ	授業内容
第1回	臨床心理学とは何かについて歴史的側面から、ヨーロッパを舞台とした精神分析学の発展とアメリカを中心に発展してきた、行動療法、来談者中心療法、という心理療法の理論と実践における方法論についての理解を育む。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、臨床心理学の歴史と様々な方法論に関して理解する（テキスト　10、11，16，17，58，59、202ページ）。
第2回	心理療法の代表的な3つのアプローチについて理解を深める。 フロイトの精神分析的アプローチについて学修する。	心理療法の3つのアプローチについて理解する。 テキストと講義ハンドアウトをもとに、フロイトの精神分析的アプローチについて理解する(テキスト64―67ページ)
第3回	ユングの考える自己と自己実現	テキストと講義ハンドアウトをもとに、フロイトの弟子たちの理論(テキスト、78，79ページ)と、夢分析について理解する(テキスト80―82ページ)。
第4回	アードラーの考える、自己と自己実現	テキストと講義ハンドアウトをもとに、フロイトの弟子たちの理論(テキスト、78，79ページ)を理解する(テキスト80―82ページ)。アードラーの考える自己と自己実現を理解する。
第5回	マズローの考える自己実現	プリントを基に、マズローの考える欲求と自己実現を理解する。
第6回	行動療法、認知療法の理論について学修する。心理アセスメントについて学修する。精神科、緩和ケア病棟の心理アセスメントの意義と実際について理解し習得する。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、アイゼンクらの行動療法、エリス、ベックの認知療法について理解する（テキスト74，75ページ）心理アセスメントについて理解する(テキスト38―56ページ)。
第7回	認知療法の理論を通して人々の関係性の視点から行う心理療法に対する理解を深める。	テキストと講義ハンドアウトをもとに、認知行動療法のＡＢＣＤＥ理論を理解する（テキスト74ページ）。自身の不安、敵意に対してこの技法を試してみる。
第8回	家族療法の理論を通して人々の関係性の視点から行う心理療法に対する理解を深める。認知行動療法の考える自己と問題解決	テキストと講義ハンドアウトをもとに、家族療法についての理解を深める(テキスト101-113ページ)。
第9回	ヒューマニスティックアプローチについての理解を深める。心理療法におけるラポールと転移について理解する。	テキストとプリントをもとに、来談者中心療法について理解する(テキスト70―73ページ)ラポール、転移、逆転移について理解する(62，63ページ)。
第10回	欲求コントロール	プリントを基に、欲求コントロールを理解する。
第11回	アサーティブネスと自己実現	プリントを基に、アサーティブネスを理解する。
第12回	講義時に指定する	プリントを基に、笑いと、ラフターセラピーを理解する。
第13回	対象喪失とグリーフセラピー	プリントを基に、対象喪失とグリーフセラピーを理解する。
第14回	ジェンダーとカウンセリング	プリントを基に、ジェンダー関連のカウンセリングを理解する。
第15回	まとめ、確認テスト　課題提出	テキストとプリントを基に学修したことをまとめ、夢レポートの提出する。

テキスト・参考書	教科書：徹底図解　臨床心理学　編著者名：青木紀久代　　出版社・出版年：新星出版社　価格：1500円 参考書：下山晴彦編　よくわかる臨床心理学　ミネルヴァ書房
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	一般臨床医学	担当教員名	河田 美紀【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	臨床医学的観点から、疾病学、病理学の基礎を学び、病気の原因、経過及び結果、病態と機能の変化を理解する。これにより、臨床における疾病学の基本的概念を知り、病気の予防、診断と画像評価、早期治療、リハビリテーションによる後遺症の治療や再発防止を中心とした臨床医学についての基礎を養い、他で開講される様々な症候学を学ぶ上で必要な基礎的な臨床医学知識を習得する。また、臨床において容体が急変する対象者の対応、大規模災害が多発する社会情勢に対応できるよう、救急医学についてもその基礎を学ぶ。		
到達目標	①臨床医学一般の診察、検査、診断から治療への流れを理解する。 ②主要疾患の病因・病態に関する知識を習得する。 ③リハビリテーション学との関連性について理解する。		

授　業　計　画		
回数	授業テーマ	授業内容
第1回	救急医学	ショック、心肺蘇生法、呼吸管理、輸血、救急処置の概要を理解する。ICUの役割を理解する。
第2回	外科総論	機械的損傷と非機械的損傷、感染性疾患、末梢血行障害、腫瘍の症状と治療を理解する。
第3回	脳神経外科総論	症候と病態、主の脳疾患の概要について理解する。
第4回	循環器疾患、呼吸器疾患	心筋梗塞など循環器疾患、肺炎や慢性肺疾患の病態と治療を理解する。
第5回	消化器疾患	食道癌・胃潰瘍・胃癌、腸閉塞、大腸癌などの病態と治療を理解する。
第6回	肝・胆・膵疾患	ウイルス性肝炎、肝硬変、肝癌、胆石、急性膵炎の病態と治療を理解する。
第7回	血液・造血器疾患	貧血をきたす疾患・白血病・出血性疾患の病態と治療を理解する。
第8回	代謝性疾患	糖尿病・脂質異常症・痛風などの病態と治療を理解する。
第9回	内分泌疾患	下垂体・甲状腺・副腎疾患の病態と治療を理解する。
第10回	泌尿器・生殖器疾患	泌尿器・生殖器疾患の診断と検査法、腎と尿路の代表的疾患の病態と治療について理解する。
第11回	膠原病・アレルギー・感染症疾患	関節リウマチ・ＳＬＥ・強皮症など病態と治療を理解する。
第12回	講義時に指定する	皮疹の特徴と皮膚疾患の原因と症状、皮膚感染症などの病態と治療を理解する。
第13回	婦人科・産科疾患	性機能の生理、不妊、女性器の腫瘍、正常の妊娠と分娩、不妊について理解する。
第14回	眼疾患・耳鼻咽喉科疾患	眼疾患の病態と検査を理解する。耳・鼻・咽頭・喉頭疾患の症状と病態生理、検査について理解する。
第15回	老年期医学、小児疾患	高齢者の代表的な疾患、薬物療法の概要を理解する。 小児の感染症と代表的な疾患の病態と治療を理解する。

テキスト・参考書	教科書：椿原彰夫、平岡崇編著　PT・OT・STのための一般臨床医学第3版　医歯薬出版株式会社 前田眞治他著　標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野内科学第3版　医学書院 参考書：千代豪昭、黒田研二編集　学生のための医療概論第3版　医学書院
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	呼吸循環器内科学	担当教員名	河田 美紀【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	現在のリハビリテーション医療は、運動器疾患、脳血管疾患、心大血管疾患、呼吸器疾患に大別されそれぞれに専門性が重視された診療が実施されている。また、心臓リハビリテーション指導士や呼吸療法認定士等の資格も制定され、個々の臨床成果が期待されている。本講義では呼吸器・循環器疾患に焦点を置き、その病態把握、検査法、治療法、最新の内科学の進歩と課題について学び、理学療法士、作業療法士として必要な基礎的知識を習得する。		
到達目標	①呼吸循環器内科学に必要な症候学、診断学、及び治療学を理解する。 ②主要疾患の病因・病態に関する知識を習得する。 ③リハビリテーション学との関連性について理解する。 ④疾患の予防、発症、治療に関する知識を習得し理解する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	内科的診断と治療の実際	診察法、臨床検査、内科的治療、リハビリテーションとの関連事項
第2回	症候学	発熱、倦怠感、食欲不振、悪心・嘔吐などについて理解する。
第3回	循環器	循環器系の解剖と生理
第4回	循環器疾患総論①	主要な症候、診断法
第5回	循環器疾患総論②	検査法と結果の解釈
第6回	循環器疾患各論①	高血圧、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）
第7回	循環器疾患各論②	先天性心疾患、弁膜症、心筋症
第8回	循環器疾患各論③	心不全、不整脈、大動脈、大動脈瘤、心移植
第9回	心臓リハビリテーション	クリニカルパス、運動療法、食事療法、活動と参加
第10回	呼吸器	呼吸器系の解剖と生理
第11回	呼吸器疾患総論①	主要な症候、検査法と結果の解釈、診断法
第12回	講義時に指定する	検査法と結果の解釈
第13回	呼吸器疾患各論①	肺炎、結核、慢性閉塞性肺疾患、呼吸不全
第14回	呼吸器疾患各論②	気管支喘息、肺癌、肺血栓塞栓症、気胸
第15回	呼吸リハビリテーション	在宅酸素療法、運動療法、食事療法、活動と参加

テキスト・参考書	教科書：前田眞治他執筆　標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野内科学第3版 参考書：寺野彰総編集　シンプル内科学改訂第2版　南江堂
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	神経内科学	担当教員名	河田 美紀【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリテーション医療の代表的対象とされる脳血管疾患、パーキンソン病等の中枢神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、難病等の疾患メカニズムについて学習する。特に脳血管疾患は悪性新生物、心疾患とともに我が国の３大死因となっている。不可逆的障害をもちながら社会生活を維持していくかは、理学療法士、作業療法士にとって大きな課題である。本講義では神経解剖学と神経生理学の基礎を踏まえ、現れた症状から原因を検討し、診断方法と治療法、予後予測、再発予防等を理解する。		
到達目標	①神経学的診断法、神経症候学を理解する。 ②神経内科で扱う疾患の分類を理解する。 ③各疾患の障害部位と症状の関係、疫学、予後を理解する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	神経学的検査と診断	体幹・四肢の検査と診断、画像診断、電気生理学的検査、自律神経機能検査、腰椎穿刺
第2回	神経症候学（意識障害）	意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神
第3回	神経症候学（運動麻痺・感覚障害）	運動麻痺と錐体路徴候、筋委縮、錐体外路徴候、運動失調、感覚障害
第4回	神経症候学（高次脳機能障害①）	失語・失行・失認の概念と分類、症状と責任病巣
第5回	神経症候学（高次脳機能障害②）	記憶障害・注意障害・遂行機能障害の概念と分類、症状と責任病巣
第6回	神経症候学（構音障害、嚥下障害）	構音のメカニズム、構音障害の診断と治療、嚥下のメカニズム、嚥下障害の診断と治療、球麻痺と仮性球麻痺
第7回	神経症候学（神経因性排尿障害、末梢神経症候）	排尿機能、神経因性排尿障害、体制神経と自律神経症候
第8回	脳神経外科領域の疾患	頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状
第9回	脳血管疾患	脳血管障害の分類、主症状、内科的治療と外科的治療
第10回	中枢神経変性疾患	変性疾患の概念と分類、大脳皮質・基底核・中脳の変性疾患、脊髄小脳変性症、脊髄変性疾患
第11回	脱髄疾患	中枢神経の脱髄疾患、末梢神経の脱髄疾患
第12回	講義時に指定する	脳腫瘍の分類・症状・診断・治療、急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、びまん性軸索損傷
第13回	末梢神経障害	絞扼性ニューロパチー、末梢性ニューロパチー
第14回	筋原性筋萎縮疾患	ミオパチー、筋ジストロフィー、その他の筋原性筋萎縮疾患
第15回	感染性疾患、小児神経疾患	神経感染性疾患の定義と原因、分類と病因 脳性麻痺、その他の小児神経疾患

テキスト・参考書	教科書：江藤文夫・飯島節編　神経内科学テキスト改訂第4版　南江堂 参考書：中島正美・島原智美編　PT・OT基礎から学ぶ神経内科学ノート第2版　医歯薬出版株式会社
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	整形外科学	担当教員名	河田 好泰【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	整形外科学は運動器の正常構造と機能を理解するとともに、外傷や疾患などの主な運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療法を学ぶ。さらに問診、理学的所見、画像診断、生理学的検査の評価に基づくことを理解する。さらに慢性疾患および先天性運動器疾患の病態、診断、治療に関する知識を習得する。運動器リハビリテーションの基礎となる四肢・脊椎外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実際についての知識を身につけ、理学療法、作業療法の実践で活用できる基礎を学習する。		
到達目標	1. 運動器（骨・関節・ 筋・神経など）の解剖および生理を理解する。 2. 整形外科的疾患の診断・評価法、治療法の概念を理解する。 3. 各種疾患について専門知識に基づいた判断が出来る。 4. 各種外傷について専門知識に基づいた判断が出来る。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	骨関節の解剖生理	骨関節の解剖と生理、機能を理解する。
第2回	診断と治療	整形外科的な診断と治療の基本を理解する。
第3回	上肢外傷	上肢の骨折の病態を理解する。 骨折の他の上肢の外傷について理解する。
第4回	脊椎の解剖生理 脊椎外傷	脊椎の解剖・生理の特徴を理解する。 解剖・生理に特徴に基づいて脊椎の外傷の病態を理解する。
第5回	小児整形外科	小児の先天性疾患を理解する。 小児によくみられる外傷や疾患の診断と治療を学ぶ。
第6回	骨軟部腫瘍	骨軟部腫瘍の病態を理解する。 四肢の骨軟部腫瘍の診断と治療を理解する。
第7回	下肢外傷	下肢の骨折の病態を理解する。 骨折の他の下肢の外傷について理解する。
第8回	関節リウマチ	関節リウマチの病態を理解する。 四肢の関節におけるリウマチ性関節炎の診断と治療を学ぶ。
第9回	下肢のスポーツ障害	膝・足関節疾患の病態、診断と治療を理解する。 下肢のスポーツ障害の病態、診断と治療を理解する。
第10回	股・膝関節疾患 人工関節	股・膝関節疾患の病態、診断と治療を理解する。 関節疾患とその代表的治療方法である人工関節手術の特徴を理解する。
第11回	上肢の疾患	上肢の神経障害の病態、診断と治療を理解する。 手や肩によくみられる疾患の病態、診断と治療を理解する。
第12回	講義時に指定する	上肢のスポーツ障害の病態、診断と治療を理解する。 手外科特有の治療を理解する。
第13回	骨代謝疾患	骨代謝の基礎と骨代謝疾患の病態を理解する。 骨粗鬆症をはじめとする骨代謝疾患の診断と治療を学ぶ。
第14回	下肢の疾患	下肢によくみられる神経障害や変性疾患の病態とその診断を理解する。
第15回	まとめ	整形外科の知識確認

テキスト・参考書	教科書：中村利孝、松野丈夫監修　標準整形外科学第13版　医学書院 参考書：適宜紹介する
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	小児科学	担当教員名	近藤 直実【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	小児の身体発育や身体機能の発達および精神発達、人格形成について学ぶとともに、これらに影響を及ぼす因子や影響への対策についても学習する。小児保健では、その内容や制度について主に解説する。先天異常、急性疾患、慢性疾患などの各種疾患では、その疫学、診断、治療、療育について主に解説する。単に小児科領域における病気を理解するだけではなく、子供という人間、親を含めた子供を取り巻く環境についても理解ができるように解説する。		
到達目標	①成長・発育過程における小児の特性について理解する。 ②小児特有の疾患とその病態について理解する。 ③小児科の医療従事者に必要な救急技術や感染症予防について理解する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	小児科学総論	粗大運動と反射の関連を学ぶ
第2回	診断と治療の概要	小児科における診断や・検査の過程を学ぶ
第3回	新生児・未熟児疾患	未熟児の神経学的初見、新生児・周産期異常症状、代表的な中枢神経障害
第4回	先天異常と遺伝病	遺伝と病気、染色体異常、先天奇形、先天代謝異常
第5回	神経・筋・骨系疾患①	中枢神経疾患、てんかん、発達遅滞、発達障害
第6回	神経・筋・骨系疾患②	脊髄性疾患、末梢神経性疾患、骨関節疾患、筋疾患
第7回	循環器疾患	心血管系の胎外環境への適応、循環器疾患の症状・検査・原因、先天性心疾患と後天性心疾患
第8回	呼吸器疾患	呼吸器疾患の発生と機能・症状と検査・治療と処置
第9回	感染症	各年代での代表的な感染症とその症状、診断・治療
第10回	消化器疾患、内分泌・代謝疾患	消化器の機能的発達と疾患、内分泌疾患、糖尿病とその他糖代謝異常
第11回	血液疾患、腫瘍性疾患	赤血球・白血球の異常、出血性・血栓性疾患、悪性腫瘍の発生頻度と治療
第12回	講義時に指定する	免疫不全・免疫調節障害、膠原病
第13回	腎・泌尿器系疾患、生殖器疾患	腎疾患と腎不全、泌尿器疾患、生殖器疾患
第14回	習癖・睡眠、心身症・神経症	小児科にみられる心身症などの主要疾患の病態と治療
第15回	重症心身障害児	定義及び発達、重症心身障害児特有の問題、療育

テキスト・参考書	教科書：富田豊編集　標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野小児科学　医学書院 参考書：久保田健夫　図解小児科　金芳堂
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	精神医学	担当教員名	井上 眞人【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	精神医学は、頭や心の働きの変調や障害に関する知識の集大成であり、精神疾患の診断や治療のあり方を検討する深く広い学問である。精神科領域はリハビリテーションの対象として重要な領域であり、現代の疾病構造としても精神科疾患の理解は重要である。精神医学について総論・各論の全般的な講義を行う。特に臨床的側面に重点を置き、その障害を有する患者の理解に必要な基本的事項を習得し、保健、医療および福祉の場で必要とされる精神科の知識を身につける。		
到達目標	①精神医学の基礎知識を習得する。 ②主な精神疾患の症状、経過、診断、治療を理解する。 ③ライフステージと精神健康問題の関りを理解する。 ④精神障害者福祉の抱えている課題を理解する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	精神医学とは	精神医学の源流、日本の歴史と法制度
第2回	精神障害の成因と分類	外因性・内因性・心因性、ICDとDSM
第3回	患者の接し方と精神症状	精神科的面接の方法、知覚・思考・感情の異常
第4回	精神症状	記憶・意欲・行動・自我意識の異常
第5回	身体因性の精神障害①	症状性及び器質性精神障害、認知症疾患
第6回	身体因性の精神障害②	てんかん、アルコール依存症、薬物依存
第7回	内因性の精神障害①	統合失調症の病型分類・症状・治療
第8回	内因性の精神障害②	気分（感情）障害の症状・分類・診断・治療
第9回	心因性の精神障害	神経症、ストレス障害
第10回	摂食障害・睡眠障害	疾患の概念と症状・診断・治療
第11回	パーソナリティ	パーソナリティ障害及び行動障害
第12回	講義時に指定する	知的障害、学習障害、自閉症、発達障害、チック
第13回	児童・青年期の行動と情緒障害	情緒障害の分類・特性・症状・診断・治療 その他児童・青年期に発症する各疾患
第14回	精神科における治療法	薬物療法、精神療法、精神科救急治療法、電気けいれん療法
第15回	精神医学に関連した知識	リエゾン精神医学、メンタルヘルス、精神鑑定、入院形態

テキスト・参考書	教科書：上島国利他編集　精神医学テキスト改訂第4版　南江堂 参考書：上野武治編集　標準理学療法学・作業療法学専門分野精神医学第4版　医学書院
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	栄養代謝学	担当教員名	森 裕志 【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　後期	授業の方法	講義
単位数	１単位	必修/選択	必修
授業の概要	栄養とは生物がその生命を維持するために外界から必要な物質を取り込んで利用する働きであり、取り込んだ物質を利用するために分解したり、取り込んだ物質を材料に、生命が必要とする物質を合成したりする働きを代謝と呼ぶ。本講義では、ヒトの生存に必要な三大栄養素を中心に、どのような構造の物質か、生体内におけるその役割、どのように消化・吸収されるか、細胞内でどのように代謝されるか、疾病との関わり等、主として生化学的な観点から学ぶ。		
到達目標	①生命の基本構造である細胞な成り立ちを理解する。 ②遺伝子情報と細胞が生きていくための仕組みを理解する。 ③３大栄養素の構造と代謝について理解できる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	生体の成り立ち	個体、臓器（器官）、組織、細胞、生体を構成する物質
第2回	アミノ酸、タンパク質の種類と構造	アミノ酸、タンパク質の構造とその役割
第3回	酵素の働き	酵素とは、酵素の特性、臨床診断への利用
第4回	糖質、脂質	糖質の構造・消化と吸収・代謝、脂質の構造・消化と吸収・代謝
第5回	アミノ酸およびタンパク質の代謝	タンパク質の生合成・代謝、タンパク質の生理活性
第6回	核酸の役割	タンパク質の生合成と遺伝子情報の関係
第7回	ホルモン、ビタミン、微量元素	ホルモンの役割と恒常性、ビタミン、微量元素の役割
第8回	消化・吸収と栄養価	栄養・栄養素とは、食品中のエネルギー量、基礎代謝

テキスト・参考書	教科書：斉藤邦明編集　わかりやすい生化学第5版ー疾病と代謝・栄養理解のためにー　ヌーヴェルヒロカワ 参考書：若林秀隆編著　リハビリテーション栄養ハンドブック　医歯薬出版株式会社
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	医療薬理学	担当教員名	永井 博弐【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	人類は薬物によって多くの恩恵を受けてきた。医療従事者にとって薬物の種類やその作用に関する知識、理解は重要である。本講義では、疾病の治療、予防や検査において使用される薬物を理解するため、薬理に関する基本的知識として薬理作用、体内動態、副作用、相互作用、中毒等について学習する。また、リハビリテーション領域における代表的疾患に処方される代表的な治療薬の分類、薬物名、作用機序、副作用、複数の薬物処方による相互作用、禁忌等についても学習する。		
到達目標	投薬処方時の主作用･副作用等の薬理作用を理解する。また、薬物が体内でどのように作用しているか（薬物動態学）、作用機序（薬力学）について概念を他者に簡潔に説明できるようになる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	薬理学総論	医薬品とは何か、医療用医薬品、処方せん医薬品について学ぶ。
第2回	薬の作用と作用機序	薬物の作用機序、受容体の相互作用および汎用性ある薬物の作用機序について理解を深める。
第3回	薬物の体内動態(1)	薬物動態の基本となる吸収、分布、代謝、排泄を学ぶ。また、薬物動態と副作用発現との関係を理解する。
第4回	薬物の体内動態(2)	高齢者、障害者における薬物動態の特性について理解する。
第5回	医薬品の副作用と毒性	個々の医薬品の主な副作用や毒性を学ぶ。また、過去におきた代表的な薬害事例を知る。
第6回	薬理学各論（1）	臨床応用に基づいて医薬品を大まかに分類できることを学ぶ。
第7回	薬理学各論（2）	リハビリテーション医療で処方される医薬品を列挙し、その作用と副作用を理解する。
第8回	総括	まとめ（薬理学の重要性について）

テキスト・参考書	教科書：図解 薬理学　第2版　医学書院　　著：越前 宏俊
学修方法	授業後は教科書、配布資料、確認プリントを利用し復習をお こなうこと。
評価方法	方法・基準 レポート100%
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	スポーツリハビリテーション概論	担当教員名	石塚　和重【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	健康は万人の願いであり、また個々の人生のＱＯＬ維持には必要不可欠な要因のひとつである。特にスポーツ・レクリエーションは体を動かすという元来人間が持っている欲求に応えるだけでなく、爽快感や達成感、他者との連帯感を共有する等の精神的な充実感において健康保持増進に極めて有用である。また健康維持増進のための食生活、運動習慣の重要性を科学的に理解し、運動による健康維持増進、体力増進等を目的とした知識とその方法について理解する。生活習慣病と運動、食生活との関連性、疾病状態の身体的特徴、また加齢による体力低下等による運動の選択などに関しても実践出来るよう学ぶ。		
到達目標	幼少期からの運動・スポーツ習慣のある生活は、健康維持・増進にとって極めて重要である事を理解し、自発的、積極的な実践指導ができるようになる。健康についての充分な理解と健康と運動・スポーツ関連性について啓発できる知識、理解力をもつことができる。		
授　業　計　画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	オリエンテーション、健康の定義	健康であるとはどういうことか理解する。	
第2回	健康と生活習慣の関連性	健康と生活習慣の相互関連性	
第3回	健康とストレスの関連性	生活習慣、日常のストレスと精神健康と関連性	
第4回	体力の概念、構成要素	体力とは何か？、大学生の体 力、体力の測定と評価方法	
第5回	なぜ運動が必要か？、運動の実際・効果	運動の意味を考える、運動の実 際を事前に読む。	
第6回	健康づくりのための政策	身体活動・運動分野における国民の健康づくりのための取組み	
第7回	代表的なスポーツ外傷・障害	スポーツ現場での救急法、RICE処置	
第8回	スポーツの役割：する、みる、ささえるスポーツ	スポーツの役割、スポーツの変遷、スポーツとマナー、スポーツの指導者）を事前に読む。	
テキスト・参考書	教科書：「大学生の健康スポーツ科学」大学生の健康スポーツ科学研究会著、道和書院 参考書：適宜紹介する		
学修方法	必要に応じて、参考資料を配付します。 授業内課題のフィードバック：次週		
評価方法	定期試験成績（100%）		
オフィスアワー			
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	老年学	担当教員名	河田美紀【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	老化について理解し、上手に年をとる、すなわち健康で充実した人生の展開にむけたリハビリテーションについて学習する。その為には、加齢に伴う身体・心理的の変化を理解し、高齢者への対応や高齢者特有の疾患を把握するとともに、高齢者を取り巻く社会問題や制度といった環境からQOLとは何か学習する。その具体的内容は、老化と老年病、認知症、、呼吸器・消化器・循環器・腎泌尿器・内分泌・代謝・感覚器・皮膚疾患等、脳血管疾患、クレイ社を取り巻く環境、死生観・ターミナルケア、介護保険などとする。		
到達目標	①加齢に伴う生理・運動機能・精神心理面の変化を説明できる。 ②高齢者へのリハビリテーション医療を説明できる。 ③高齢者を取り巻く社会的背景、物理的環境を説明できる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション 高齢化と諸問題・加齢に伴う変化	老化と老年期の考え方、高齢化の進行とそれに伴う諸問題
第2回	高齢者へのアプローチ	高齢者の定義と人口動態、高齢者の機能評価・薬物療法
第3回	高齢者に特徴的な症候と疾患①	意識障害、認知症、専門、抑うつなどの概要と対応について理解する
第4回	高齢者に特徴的な症候と疾患②	めまい、しびれ、言語障害、腰痛などの概要と対応について理解する
第5回	高齢者に特徴的な症候と疾患③	転倒、尿失禁、廃用症候群などの概要と対応について理解する
第6回	高齢者に特徴的な症候と疾患④	褥瘡、脱水、浮腫、嚥下障害などの概要と対応について理解する
第7回	循環器疾患	血圧異常、不整脈、虚血性心疾患などの概要と対応について理解する
第8回	呼吸器疾患	誤嚥性肺炎、閉塞性肺疾患などの概要と対応について理解する
第9回	消化器疾患	逆流性食道炎などの概要と対応について理解する
第10回	骨・運動器疾患	骨粗鬆症、変形性関節症、後縦靭帯骨化症などの概要と対応について理解する
第11回	神経疾患	脳血管障害、Parkinson病などの概要と対応について理解する
第12回	講義時に指定する	糖尿病、耳鼻咽喉疾患、眼疾患などの概要と対応について理解する
第13回	高齢者を取り巻く環境とリハビリテーション	社会学・経済学からみた高齢社会、高齢者リハビリテーション医療の動向
第14回	終末期医療	高齢者の終末期医療の考え方と諸動向
第15回	介護保険	介護保険の現状と地域包括ケアシステムの役割

テキスト・参考書	教科書：大内尉義編集　標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野老年学第4版　医学書院 参考書：中村重信著　老年医学への招待　南山堂 近藤克則著　健康格差社会を生き抜く　朝日新書
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	リハビリテーション医学	担当教員名	江崎 正浩【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリテーションとは障碍者の能力を回復し、人間らしい社旗生活に再適合（社会復帰）するための過程であり、機能訓練はその手段の一つに過ぎない。具体的には１．廃用の予防　２．失われた機能の回復　３．代償機能の獲得であり、最終的目標はＡＤＬの自立、家庭・社会生活への復帰である。本授業では脳卒中・脊髄損傷・骨折などを例にとりリハビリテーション医学について理解を深めてもらいたい。		
到達目標	毎回、講義前に教科書「リハビリテーションビジュアルブック（学研）」の指定した項目の通読・予習を期待します。授業ではスライドを使って教科書の該当する項目を講義します。試験問題は授業中に示します。提示した問題以外からは出題しません。授業を聞いてなぜこの問題はこの回答になるのかをしっかり理解してください。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	リハビリテーション総論	リハビリテーションとは？各種障害の概説
第2回	脳卒中（脳出血）の治療の流れ（症例１）	脳出血を例にとり中枢疾患のリハビリを概観する
第3回	脳卒中とは？	脳卒中の病型　画像診断　脳卒中の一次障害（意識障害・運動障害・感覚障害）
第4回	脳卒中（脳梗塞）の治療の流れ（症例２）	脳卒中の一次障害（摂食嚥下障害・高次脳機能障害・言語障害。排尿障害）
第5回	脳卒中のリハビリテーション	脳卒中の二次障害（廃用）急性期リハビリ・回復期リハビリ
第6回	脊髄損傷（完全対麻痺）の治療の流れ（症例１）	脊髄損傷とは？　脊髄損傷の病型　脊髄損傷による一次障害その1（運動障害・感覚障害・排尿障害）
第7回	脊髄損傷（不全四肢麻痺）の治療の流れ（症例２）	脊髄損傷による一次障害その２（自律神経障害）脊髄損傷による二次障害（褥瘡）脊髄損傷のリハビリ　固縮と痙縮
第8回	認知症（痴呆）	認知症の病型・治療・リハビリ
第9回	ニューロリハビリテーション	21世紀の脳卒中リハビリ　麻痺が回復する？！
第10回	骨折・外傷	骨折の治療・合併症・リハビリ　高齢者の骨粗鬆症と大腿骨頸部骨折
第11回	整形外科疾患のリハビリ	肩関節周囲炎、腰痛症などのリハビリ
第12回	講義時に指定する	義手・義足の仕組みとリハビリ
第13回	神経・筋の変性疾患	パーキンソン病のリハビリ　評価
第14回	呼吸器リハビリテーション	慢性呼吸疾患の評価とリハビリ
第15回	心臓大血管リハビリテーション	心筋梗塞・慢性心不全のリハビリ　心肺機能・持久力の評価

テキスト・参考書	教科書：ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾌﾞｯｸ　第2版　学研 教科書：PT/OT 国家試験　必修ポイント2022　障害別PT治療学
学修方法	＜予習＞テキストにて、次回の章にひととおり目を通しておくこと。＜復習＞毎回講義後に指定した重要箇所を復習する。
評価方法	定期試験（80%）受講態度（20%）
オフィスアワー	講義後　15分間　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	リハビリテーション概論	担当教員名	酒向 俊治・小澤 敏夫【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリテーション概論では、リハビリテーションの歴史と理念およびその仕組みについて学ぶ。具体的には、リハビリテーションの定義、歴史、目的を概説した後、障害の分類、医療従事者とチーム、関係法規・保健医療福祉行政、医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーションなどのリハビリテーションの仕組みについて解説する。また、地域リハビリテーションも含めた施設別、病期別リハビリテーションについても触れ、それぞれのリハビリテーションの目指す目標についても学習する。		
到達目標	① リハビリテーションの歴史と理念およびその仕組みについて説明できる。 ② 関係法規と担当する保健医療福祉行政について説明できる。 ③ 障害の様相とそのリハビリテーションを説明できる。 ④ 地域リハビリテーションについて説明できる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	リハビリテーションの理念と障がい	リハビリテーションの理念とその歴史的変遷、サービス体系、障がいに対する基本的な考え方を理解する。
第2回	リハビリテーション関連法規	障害者基本法、介護保険制度を中心に理解する。
第3回	リハビリテーションのサービス体系	リハビリテーションサービスとは何か、福祉サービス、社会資源、社会資源について理解する。
第4回	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション、場面ごとのリハビリテーション	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション、の違いを理解する。施設ごとのリハビリテーションを理解する。
第5回	医療とリハビリテーション専門職種と役割	インフォームド・コンセント及び専門職種の役割を理解する。
第6回	チームアプローチ	チーム医療の連携とチームアプローチの有効性について理解する。
第7回	ADL、QOLの概念と評価法	ADLとQOLの概念と評価法（SH-36）ついて理解する。
第8回	障害の心理的・社会的視点	病（障害）の心理および防御機制を理解する。
第9回	ヒトの発達と評価（とくに小児）	小児の発達および主な小児疾患リハビリテーションを理解する。
第10回	医療機関で行うリハビリテーション治療	急性期・がんリハビリテーションについて理解する。
第11回	高齢化による機能障害のリハビリテーション	高齢化による機能障害のリハビリテーションの目的と実際を理解する。
第12回	講義時に指定する	肢体障害、感覚機能障害、内部障害、高次脳機能障害について理解する。
第13回	身体障害のリハビリテーション	肢体障害、感覚機能障害、内部障害、高次脳機能障害に対するリハビリテーションの目的と実際を理解する。
第14回	地域におけるリハビリテーションの展開過程	地域リハビリテーションとは何か、活動に関する諸因子、支援体制について理解する。
第15回	リハビリテーション過程	リハビリテーションにおける評価の流れを理解する。

テキスト・参考書	テキスト：上好昭孝、田島文博編著　医学生･コメディカルのための手引書リハビリテーション概論 改訂第3版 永井書店 参考書　：砂原茂一著　リハビリテーション　岩波書店 上田敏著　ICFの理解と活用　【KSブックレットNo.5】人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか　きょうされん 中村隆一、佐直信彦編　入門リハビリテーション概論第７版　医歯薬出版株式会社
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	水曜日　16:20～17:20　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	地域包括ケアシステム論	担当教員名	藤井　稚也【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	超高齢社会のわが国において、誰もが住み慣れた地域で生活し続けるためには地域包括ケアシステムの構築が急がれる。リハビリテーション専門職に求められる役割は多岐にわたり、病院や施設と地域の連携、地域ケア会議、多職種連携した各種取り組みの実践、総合事業をはじめ、その範囲は地域における自助と互助の強化に向けたマネジメントにも及ぶ。地域包括ケアシステムの誕生背景と概要を含め、各役割の種類と重要性を学び理解する。		
到達目標	1 地域特性を把握する視点を述べられる。 2 地域特性（地域のニーズ）に応じた地域包括ケアシステムの在り方について述べられる。 3 地域包括ケアシステムのなかで医療におけるリハビリテーションの在り方および連携について説明できる。 4 生活支援のための介護保険サービスにおけるリハビリテーションの提供について理解する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	地域包括ケアシステムの概念	地域包括ケアシステムとは何か、その歴史。その中でのリハビリテーションの役割を理解する。
第2回	健康維持と障がい予防、介護保険サービス	生活支援のための介護保険サービスにおけるリハビリテーションの提供について理解する
第3回	退院前の多職種連携	保健医療福祉政策の過程について理解する。
第4回	地域包括ケアシステムにむけた在宅生活における多職種連携	在宅における多職種連携について理解する。
第5回	ケアマネジメントの概念と役割	ケアマネジメントにおける多職種の役割，連携について理解する。
第6回	ケアマネジメントの過程を個別支援計画	ケアマネジメントの過程について理解する。
第7回	ケアマネジメントの実際1	地域における自助と互助の強化に向けたマネジメント（個別支援計画）を理解する。
第8回	ケアマネジメントの実際2	障がい者の地域生活に必要な生活支援を自ら考える。

テキスト・参考書	教科書：プリント配布 参考書：適宜紹介する
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義にはプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	月曜日　16:10～17:00　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　理学療法学科・作業療法学科		
授業科目名	社会福祉概論	担当教員名	市川 季夫
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	選択
授業の概要	社会福祉概論は、社会福祉の基礎知識とその理論、歴史的な経緯について学び、日常生活を支える社会保障の体系及び社会保険の仕組みと制度について学修する。具体的には日本の社会福祉の歴史、こどもの福祉、障害者福祉、高齢者福祉、地域福祉、生活保護の仕組みや医療保険制度の概要について入門理論を中心に学ぶ。この授業では、自立した社会人として、社会保障に関する一般的知識と技能と常識に裏付けられた考えを持ち、自己研鑽に取り組み、自らの可能性を生かしつつ組織や社会の中で貢献できる力を身につける。		
到達目標	① 社会保障制度の概念、社会保障の歴史について説明できる。 ② 児童福祉、ひとり親家庭、障がい者福祉、高齢者福祉について説明できる。 ③ 生活保護制度、地域福祉、医療保険制度の概要、精神保健福祉法の概要を説明できる。 ④ 社会福祉分野における相談・援助の役割と展開方法について説明できる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	制度から見た社会福祉	社会保障制度の中の社会福祉を理解する。
第2回	社会保険と社会福祉	社会福祉制度をどのように活用するかを学ぶ。
第3回	子育て支援の社会福祉	少子化、児童虐待と子育て支援を学ぶ。
第4回	ひとり親家庭の支援	生活支援と就労支援、そして自立へ向けての支援を学ぶ。
第5回	高齢者福祉と介護保険	福祉・介護の制度についての概念、介護保険法に関する理解を学ぶ。
第6回	障がい者・低所得者福祉と自立支援	３障がい者・貧困世帯が活用できる社会資源を学ぶ。
第7回	社会福祉の援助方法	福祉相談者の基本姿勢と社会資源の活用方法を学ぶ。
第8回	社会福祉と医療・保健の連携	福祉を担う人々との連携・協働の意義と方法を学ぶ。

テキスト・参考書	教科書：保健医療福祉職に必要な社会福祉学。川島　芳雄著　丸善プラネット　2200円+税 参考書：適宜紹介する
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントを使う。
評価方法	受講態度（10%）、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（10%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義後
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	作業療法学概論	担当教員名	原　和子・大星 有美【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業が人間の健康に寄与することを理解し、作業療法士はどのようにこれらのテーマを医療、福祉、教育などの分野で展開してきたかについて学ぶ。作業療法の対象となる「障害」についてはWHOによる障害の分類であるICFを理解し、この障害を理解、体験し、考えることによって、作業療法士としてのキャリア形成を明確化する。また、作業療法の歴史的、法的位置付け、実際の方法論などの概要について理解し、各技術論や実習を学ぶ態度を身につける。		
到達目標	１．作業療法の歴史、作業と健康、作業療法の概要を説明できる。 ２．作業療法士に求められる専門性とは何かを考え、作業療法の理論と概要をまとめることができる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回　原	オリエンテーション、作業療法の歴史	授業概要と作業療法の歴史。PBL1（作業療法の歴史を調べる）
第2回　原	作業療法の歴史	PBL1（作業療法の歴史を発表する）
第3回　港、大星	作業科学：作業科学とは、作業とは	誕生の背景、作業療法にとっての作業科学、作業の視点と分析、作業とは何か（自らの作業の分析を経験する）
第4回　港、大星	作業科学：作業と健康、作業の影響力	作業と健康、主観的な経験、意味，形態（他者の作業分析を経験する）
第5回　港、大星	作業科学：論文を解釈する	作業の問い、文献検索（作業の問いを検討する）
第6回　港、大星	作業科学：作業療法への応用を考える	作業療法実践の説明と提案につなぐ（文献から実践の説明を経験する）
第7回　港、大星	作業科学：作業療法との相互関連性	学問の構築、国内外の動き、作業的公正、今後の展望（可能性を検討するために意見交換する、自分の意見を発表する）
第8回　港、大星	カナダ作業遂行プロセスモデル（Canadian Model of Occupational Performance）	作業ができるということ（Enabling Occupation）
第9回　原	人間作業モデル(Model of Human Occupation)	作業への意志、習慣化、遂行能力作業と環境との関係
第10回　原	人間作業モデルまとめ	PBL2(作業遂行障害症例)
第11回　原	感覚統合理論	発達との関係
第12回　原	講義時に指定する	PBL3（発達障害、認知症など）演習
第13回　原	感覚統合理論に基づいた作業療法	PBL3（発達障害、認知症など）発表
第14回　原	作業療法の神経発達理論（片麻痺）	片麻痺の作業療法、理論と実際
第15回　原	作業療法概論まとめ	ポートフォリオ作成、質疑応答

テキスト・参考書	教科書：ギャリー・キールホフナー、監訳　山田孝　作業療法実践の理論　原書第4版、　医学書院エガース・片麻痺の作業療法　協同医書出版社 参考書：杉原素子　編集　作業療法概論　協同医書出版
学修方法	各テーマについて講義及PBL（問題解決型学習）びを行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	ポートフォリオ、授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（50%）、定期試験成績（50%）
オフィスアワー	水曜日　16:20～17:30　研究室
備考・履修条件	専門基礎科目で学んだ解剖学、生理学、各疾患について予習、復習を行い受講すること

学部	リハビリテーション学部・作業療法学科		
授業科目名	表面解剖学	担当教員名	原　和子　【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	体表にあらわれた骨、表在の筋、腱、神経、血管は、リハビリテーション医療をすすめる上で、基本的な指標となる。リハビリテーション医学評価に関わる検査時、運動療法や作業療法時における活動の注意深い観察と触診は病的変化があるかどうか、治療の効果判断の重要な決め手となることを学ぶ。		
到達目標	①体表で触察できる運動器系筋、骨、神経の解剖学的特徴を口頭で説明できる ②摂食嚥下療法で必要な筋、器官を触察できる ③手外科、ハンドセラピーで必要な筋、骨、静脈、動脈を触察できる		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	触察の基本。関節、筋、腱、神経、血管	骨、関節、筋などの触れ方
第2回	肩甲骨と周囲の骨、筋、腱、神経、血管	上肢帯における肩甲骨の役割、周囲筋
第3回	肩甲骨と周囲の骨、筋、腱、神経、血管	肩甲骨周囲筋、特に前鋸筋
第4回	上肢：肩関節周囲の骨、筋、腱、神経、血管	回旋筋腱版（rotatoe cuff）、上腕二頭筋を主に
第5回	上肢：肘周囲の骨、筋、腱、神経、血管	特に前腕回内運動に関わる骨、筋
第6回	上肢：手の骨、筋、腱、神経、血管	前腕筋群（外来筋）を主に
第7回	上肢：手の骨、筋、腱、神経、血管	手筋（内在筋）を主に
第8回	下肢：股関節周辺の骨、筋、腱、神経、血管	骨盤、大転子、特に中殿筋を主に
第9回	下肢：膝関節周辺の骨、筋、腱、神経、血管	特に膝伸展に関連する大腿四頭筋
第10回	下肢：足関節周辺の骨、筋、腱、神経、血管	骨のアライメントと靭帯を主に
第11回	下肢：足部の骨、筋、腱、神経、血管	骨のアライメントと靭帯を主に
第12回	講義時に指定する	姿勢、運動との関連における視診と触察
第13回	体幹-胸郭・脊柱関連	姿勢、運動との関連における視診と触察
第14回	体幹-胸郭・脊柱関連	摂食嚥下、呼吸での視診と触診
第15回	まとめ	質疑応答とポートフォリオ作成

テキスト・参考書	教科書：「新・徒手筋力検査法　原著第10版」協同医書出版社 参考書：上羽康夫「手　その機能と解剖」金芳堂
学修方法	各テーマについての講義と演習を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	小テスト、ポートフォリオ（50%）、定期試験成績（50%）
オフィスアワー	水曜日　16：00～17：00　　研究室
備考・履修条件	予習、復習をし、ポートフォリオにまとめておくこと。積極的な発言、質問を期待します。

学部	リハビリテーション学部・作業療法学科		
授業科目名	基礎作業学	担当教員名	原　和子【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法学を支えている基礎的な知識として、人間にとって「作業」とは何か、その本質と役割を理解する。作業と健康の関連性を医学、福祉学、社会学視点から確認し、さらに作業を治療として用いるための仕組みを学ぶ。作業が人間にとって環境適応として、どのような意味を持つのか、健康に寄与するためにかかせない要素はなにか、生活と個人の生涯設計を形成する作業と、作業療法という形で医療分野に位置付けられてきた過程を考える。		
到達目標	１．作業と健康、ウェルビーイングとの関係性を説明できる ２．作業分類の特徴と、作業と運動生理機能・心理機能・ライフステージとの関係について説明できる ３．MTDLPについて説明できる ４．作業分析の方法について説明できる		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス、作業と健康概念の歴史	作業の語りと創作、自己実現とwellbeing
第2回	音楽療法　演習	集団力学、レクリエーションの要素
第3回	音楽療法　身体活動（ダンス、体操など）	集団力学、レクリエーションの応用
第4回	絵画療法、グループ作業演習	集団力学、文化的背景、社会学視点の応用
第5回	絵画療法、グループ作業演習　発表	絵画応用、演習、発表
第6回	絵画療法、個人的な作業の意味	パステル画の体験と分析　演習
第7回	園芸療法の目的、評価	園芸療法の領域とその内容
第8回	園芸療法の作業療法プログラム	園芸療法の領域とその内容
第9回	園芸療法発表	作業における心身機能の分析（疾病・障害による影響を含む）
第10回	作業分析（織物）演習	織物作業の遂行評価からの分析他
第11回	作業分析（織物）	織物作業の分析と応用
第12回	講義時に指定する	教育的、生体力学的、精神心理学的分析とその指導
第13回	構成的作業分析	作業における心身機能の分析（疾病・障害による影響を含む）
第14回	構成的作業分析	作業における心身機能の分析
第15回	まとめ。発表と質疑応答	問題解決課題についての発表、討議

テキスト・参考書	テキストはプリントを配布する。参考書は、濱口豊太「基礎作業学　第3版」医学書院。
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義にはプリントとスライドを使う。
評価方法	ポートフォリオ（50%）、発表（50%）
オフィスアワー	水曜日　16:20〜17:30　研究室
備考・履修条件	予習復習に加えて、質疑応答、活発な意見交換を期待します

学部	リハビリテーション学部・作業療法学科		
授業科目名	作業療法理論	担当教員名	原　和子【実務該当教員】
学年 開講時期	２年次　前期	授業の方法	講義
単位数	１単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法を解説する理論はリハビリテーション医学の中でも臨床での実践の中にあるという立場から、健康パラダイムにおける作業療法実践の目的と意味、根拠を示す各種理論や関連した枠組みについて学ぶ。人・環境・作業の関係性を交流理論形成の発展としてとらえる中で、概念的実践モデルの特性と役割について、特に現在普遍化されている作業科学、人間作業モデル・カナダ作業遂行モデル、認知行動療法、感覚統合などの理論を理解する。		
到達目標	作業科学、人間作業モデル・カナダ作業遂行モデル、認知行動療法、感覚統合理論などの理論を説明できる。		

授　業　計　画		
回数	授業テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス。人間 - 作業 - 環境の交流理論形成の発展	健康パラダイムに至る哲学及び医学の歴史。西洋の文化と環境
第2回	人間 - 作業 - 環境の交流理論形成の発展	健康パラダイムの背景。東洋の文化と作業療法
第3回	作業科学	健康を支える作業正当性、作業バランスと支援
第4回	人間作業モデル	作業への意志、習慣、作業遂行能力の枠組みと環境の関係
第5回	カナダ作業遂行モデル	クライエント中心の作業療法評価と計画
第6回	認知行動療法理論	自己認知と社会適応への支援
第7回	感覚統合療法と理論	発達支援としての感覚統合理論と評価、実践
第8回	まとめ	質疑応答、ポートフォリオ作り

テキスト・参考書	教科書：ギャリー・キールホフナー、監訳　山田孝　作業療法実践の理論　原書第4版　医学書院 参考書：杉原素子　編集　作業療法概論　協同医書出版
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	ポートフォリオの成績（50%）、定期試験成績（50%）
オフィスアワー	水曜日　　16：20～17：50　　研究室
備考・履修条件	授業中のノート、予習復習時の資料はポートフォリオとしてまとめておくこと。

学部	リハビリテーション学部・作業療法学科		
授業科目名	基礎作業学演習	担当教員名	原 和子・宇佐美 知子【実務該当教員】
学年 開講時期	２年次　後期	授業の方法	演習
単位数	１単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法の治療手段の1つである手工芸として、革・籐細工について基本的な知識と技術を学ぶ。作業体験を通して、作業と健康、ウェルビーイングとの関係性を説明できる。作業分類の特徴と運動生理学・心理機能・ライフステージとの関係から活動分析を行い、革・籐細工に必要な身体的・精神的能力を知り、作業療法としての効果について考察する。また障害別に、治療的応用、制作時の工夫（自助具など）、注意事項、禁忌事項を学習する。		
到達目標	1. 革細工、籐細工の作業分析により、作業工程に必要な身体・精神能力を説明できる 2. 革細工、籐細工の工程を体験し、疾患・障害に合わせた段階付ができる 3. 作品を作ることができ、作業療法に必要な制作時の環境設定（自助具を含む）について説明できる		
授　業　計　画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	ガイダンス。革細工・籐細工の治療概念	生体力学的、認知行動療法的、発達障害、ライフスタイル枠組み	
第2回	革細工：段階づけ、評価、適応	マズローの欲求段階と革細工例、認知評価、作業評価	
第3回	革細工：道具と材料、実施過程の体験	道具と革材料の選択、スタンピング	
第4回	革細工：基本技法	染色、レーシング、金具の取り付け	
第5回	革細工：基本技法	カービング、レーシング、金具の取り付け	
第6回	革細工の作業分析	制作過程における精神状態、運動、コミュニケーション	
第7回	革細工の疾患・障害適応と環境設定	PBL1、身体障害、精神疾患、発達障害例。グループ活動	
第8回	革細工の疾患・障害適応と環境設定	PBL1、身体障害、精神疾患、発達障害例。発表	
第9回	籐細工：段階づけ、評価、適応、道具と材料	材料の特質と選択、認知評価、作業評価	
第10回	籐細工：基本技法	小物入れかごの制作、底を組む	
第11回	籐細工：基本技法	小物入れかごの制作、ザル編みと縁どめ	
第12回	講義時に指定する	PBL2、身体障害、精神疾患、発達障害例。グループ活動	
第13回	籐細工の疾患・障害適応と環境設定	PBL2、身体障害、精神疾患、発達障害例。発表	
第14回	革細工、籐細工の作業療法マニュアル作り	グループ活動	
第15回	革細工、籐細工の作業療法マニュアル作り	発表	
テキスト・参考書	教科書：籐かご教室　紡ぎ「籐編みのかご」朝日新聞出版		
学修方法	各テーマについて演習及PBL（問題解決型学習）を行う。演習には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	作品発表とレポート（50%）、ポートフォリオ（50%）		
オフィスアワー	水曜日　16:20～17:30　研究室		
備考・履修条件	活発な討論、質疑応答、作品制作を期待しています		

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	作業療法評価概論	担当教員名	澤 俊二・大星 有美【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法における評価の位置付けとその具体的な内容について講義する。作業療法評価の位置付けとしては、評価は障害の原因を探るためのデータ収集であり、個々の評価結果のみで判断し得るものではないことを強調し、問題点や目標設定との関連性も含めた統合と解釈の重要性を学ぶ。具体的な内容としては、作業療法評価の概要・目的・測定機器の使用方法・流れについて論じ、問診、観察、バイタルサイン、形態測定、神経学系測定、運動機能評価、呼吸・循環・代謝機能評価、高次脳機能評価等を学び、その内容を理解する。		
到達目標	①評価の流れ、手段について理解する。 ②面接・観察法について理解する。 ③各評価・検査項目について、概要、目的、測定機器、記録方法を理解する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	評価とは	守秘義務、評価の位置づけ・流れ・注意点を理解する
第2回	他部門との関わりと情報収集	評価するための情報収集について理解する
第3回	面接	面接の基本的な進め方、形式の分類、留意点等を学ぶ
第4回	観察①	定義と意義、観察の種類、全身状態の観察等を学ぶ
第5回	観察②	行動観察法、集団評価、日常生活技能評価等を学ぶ
第6回	バイタルサイン	意識・脈拍・血圧・呼吸・sp02の評価方法を理解する
第7回	形態測定	四肢長・周径の検査方法を理解する
第8回	反射検査・筋緊張検査	反射・筋緊張の仕組みと検査の概要を理解する
第9回	関節可動域検査・筋力検査	関節の仕組みを学び可動の阻害因子を抽出する 筋力の概念と検査の概要を理解する
第10回	知覚検査・疼痛検査	知覚の仕組みと検査、痛みの検査の概要を理解する
第11回	姿勢反射検査	姿勢反射の仕組みと検査の概要を理解する
第12回	講義時に指定する	協調運動の概念、脳神経の働きと検査の概要を理解する
第13回	呼吸・循環・代謝機能評価	運動耐用能力と検査の概要を理解する
第14回	高次脳機能評価	高次脳機能検査の概要を理解する
第15回	評価の解釈、再評価と効果判定、記録・報告	問題点の抽出、目標設定、治療効果と質的保証について学ぶ

テキスト・参考書	教科書：能登真一　他編　標準作業療法学 作業療法評価学　第3版　医学書院, Helen J. Hislop著　新・徒手筋力検査法 原著　第9版　協同医書出版社 田崎義昭　他　ベッドサイドの神経の診かた 第18版　南山堂 参考書：石川齊編　図解 作業療法技術ガイド　第3版　文光堂 山根寛　精神障害と作業療法　新版　三輪書店 鈴木則宏　編　神経診察クローズアップ　正しい病巣診断のコツ 改訂第2版　メジカルビュー社
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（30%）、定期試験成績（70%）
オフィスアワー	水曜日　16:20～17:20　研究室
備考・履修条件	予習として，講義テーマに該当する解剖・生理・運動学の講義の復習を行こと。

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	作業療法評価検査・測定論Ⅰ	担当教員名	澤 俊二・宇佐美 知子【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法士が病院・施設等で支援を展開するためには、対象者を専門的に評価し、問題点を明らかにする必要がある。その上で、人体の各機能における標準値との比較、左右の比較等、正常値と異常値の判別、更には問題点の焦点化に向けた科学的根拠に基づく論理的考察が重要となる。本講義では、医療系専門職の共通評価であるバイタル測定をはじめ、作業療法士に必要な関節可動域測定、徒手筋力テスト、機器を使用した筋力測定、反射、筋緊張検査の知識と技能を学修する。		
到達目標	①各種評価の目的と手順について説明できる。 ②各種評価を実施するための技術を習得する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	バイタル測定	脈拍・血圧・呼吸・Sp02の測定方法を学ぶ。
第2回	形態測定	長さ、太さの計測方法、体格指数の測定方法を学ぶ。
第3回	腱反射・病的反射・表在反射②	各種反射の検査方法を学ぶ。
第4回	筋緊張検査	被動性、懸振性による検査方法を学ぶ。
第5回	関節可動域①	頸部、体幹、肩甲帯の測定方法を学ぶ。
第6回	関節可動域②	肩関節の測定方法を学ぶ。
第7回	関節可動域③	肘関節、前腕、手関節、手指の測定方法を学ぶ。
第8回	関節可動域④	股関節の測定方法を学ぶ
第9回	関節可動域⑤	膝関節、足関節、足部の測定方法を学ぶ。
第10回	機器を使用した筋力測定 徒手筋力テスト①	握力・ピンチ力・足趾力・ハンドヘルド等の測定方法を学ぶ。 頭頸部・体幹筋の測定方法を学ぶ。
第11回	徒手筋力テスト②	肩甲帯周囲の筋の測定方法を学ぶ。
第12回	講義時に指定する	肩関節周囲の筋の測定方法を学ぶ。
第13回	徒手筋力テスト④	肘・手関節の周囲の筋の測定方法を学ぶ。
第14回	徒手筋力テスト⑤	股関節周囲の筋の測定方法を学ぶ。
第15回	徒手筋力テスト⑥	膝・足関節周囲の筋の測定方法を学ぶ。

テキスト・参考書	教科書：能登真一　他編　標準作業療法学 作業療法評価学　第3版　医学書院, Helen J. Hislop著　新・徒手筋力検査法 原著　第9版　協同医書出版社 田崎義昭　他　ベッドサイドの神経の診かた 第18版　南山堂 参考書：石川齊編　図解 作業療法技術ガイド　第3版　文光堂 鈴木則宏　編　神経診察クローズアップ　正しい病巣診断のコツ 改訂第2版　メジカルビュー社
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（30%）、定期試験成績（70%）
オフィスアワー	水曜日　16:20～17:20　研究室
備考・履修条件	予習として、次講義の内容についてテキストまたは資料を読み込むこと。

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	作業療法評価検査・測定論Ⅱ	担当教員名	澤 俊二・宇佐美 知子【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	心身機能に関する作業療法評価において各種検査項目の検査内容や評価結果の分析、記録・報告の方法を理解する。基本的な実施方法や手順の倫理的根拠を学び、実技に関連した知識・技術を習得する。また、評価方法だけでなく作業療法士として必要な態度や姿勢についても必要性と意味を考え、実践に結びつけるように理解を深める。具体的には、脳卒中機能評価、知覚検査、脳神経検査、協調性検査、姿勢バランス検査、上肢機能検査、作業遂行機能検査、精神機能検査、QOL評価、職業前評価各検査について必要な知識・技術を習得する。		
到達目標	①各種評価の目的と手順について説明できる。 ②各種評価を実施するための技術を理解し、習得できる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	知覚検査①	「表在感覚」の検査方法を理解する。
第2回	知覚検査②	「深部感覚」の検査方法を理解する。
第3回	姿勢バランス検査	姿勢バランス検査の検査方法を理解する。
第4回	脳神経検査①	脳神経検査の検査方法を理解する。
第5回	脳神経検査②	脳神経検査の検査方法を理解する。
第6回	協調性検査	協調性検査の検査方法を理解する。
第7回	脳卒中機能評価	BRS、SIAS、JSS等について学ぶ。
第8回	上肢機能検査①	STEF、MFTについて学ぶ。
第9回	上肢機能検査②	整形外科系疾患検査の検査方法を理解する。
第10回	上肢機能検査③	整形外科系疾患検査の検査方法を理解する。
第11回	画像のみかた	画像所見と症状を関連付ける。
第12回	講義時に指定する	箱作り法、包括的作業分析について学ぶ。
第13回	精神機能評価	質問紙法、投影法について学ぶ。
第14回	QOL評価	QOLの評価項目について概要を学ぶ。
第15回	職業前評価	職業前評価の検査方法を理解する。

テキスト・参考書	教科書：能登真一　他編　標準作業療法学 作業療法評価学　第3版　医学書院, 田崎義昭　他　ベッドサイドの神経の診かた 第18版　南山堂 参考書：石川齊編　図解 作業療法技術ガイド　第3版　文光堂 山根寛　精神障害と作業療法　新版　三輪書店 鈴木則宏　編　神経診察クローズアップ　正しい病巣診断のコツ 改訂第2版　メジカルビュー社
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（30%）、定期試験成績（70%）
オフィスアワー	水曜日　16:20～17:20　研究室
備考・履修条件	予習として，各講義で該当する箇所をしっかりと理解し、講義に参加すること。

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	日常生活活動学	担当教員名	澤 俊二【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	日常生活活動の意義やその評価方法について学び、評価の目的、判定、記録方法についての知識を得る。また、日常生活活動の分析を行い、心身機能・身体構造や環境との関連性について理解を深め、活動に与える影響を学ぶ。さらに、対象者の動作や活動の特性を理解するために、健常人の日常生活動作を理解する。また、自助具、福祉用具の種類や適応となる疾患，導入時の注意点、生活環境整備などについて理解を深めることができる。		
到達目標	①日常生活動作の概念や説明できる。 ②評価の種類や方法について説明できる。 ③日常生活動作への作業療法の介入方法について概略を説明できる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	日常生活活動の概念	定義、日常生活活動の範囲と項目を学ぶ
第2回	日常生活活動別の問題点と援助の視点①	身辺処理（食事、排泄、起居・移動）について学ぶ
第3回	日常生活活動別の問題点と援助の視点②	身辺処理（更衣、整容、入浴、コミュニケーション、健康管理）について学ぶ
第4回	日常生活活動別の問題点と援助の視点③	家庭生活・日常生活関連活動、社会活動について学ぶ
第5回	日常生活活動の評価①	日常生活活動の障害・自立、評価の過程・解釈・目標設定を理解する
第6回	日常生活活動評価の実際①	基本的ADL評価を学ぶ
第7回	日常生活活動評価の実際②-1	Functional independence measureの採点方法を理解する
第8回	日常生活活動評価の実際②-2	Functional independence measureの採点方法を理解する
第9回	日常生活活動評価の実際②-3	Functional independence measureの採点方法を理解する
第10回	日常生活活動評価の実際③	Barthel indexの採点方法を理解する
第11回	日常生活活動評価の実際④	広域ADLの評価を学ぶ
第12回	講義時に指定する	健康関連QOLの評価を学ぶ
第13回	日常生活活動制限に対する作業療法援助	援助、効果判定、フォローアップについて理解する。
第14回	移動と補装具①	歩行補装具について、体験を通して理解する
第15回	移動と補装具②	車いすについて、体験を通して理解する

テキスト・参考書	教科書：伊藤利之他編　新版日常生活活動（ADL）第2版評価と支援の実際　医歯薬出版株式会社 参考書：濱口豊太編　標準作業療法学日常生活活動・社会生活行為学　医学書院 酒井ひとみ編　作業療法学全書　改訂第3版 第11巻　作業療法技術学3　日常生活活動　協同医書出版 伊藤利之　他監修　ADLとその周辺―評価・指導・介護の実際　第2版　医学書院
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	定期試験（100%）
オフィスアワー	水曜日　16:20～17:20　研究室
備考・履修条件	自分たちの日常生活動作を意識して生活する。障害を抱える人の生活がイメージできるようになるため各疾患の特徴を復習する。

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	日常生活活動演習	担当教員名	就任予定者
学年 開講時期	2年次　後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	日常生活活動学の講義内容を踏まえた上で、日常生活動作におけるバイオメカニズムを理解する。そのため、運動学で学修した重心と支持基底面、てこの知識を動作分析に応用し、理解することから始める。また、それらの基本的な各動作を演習形式で体感し、動作分析の理解を深める。動作は健常人の基本を学び、障害者の福祉用具や日常生活活動(ADL)の具体的な指導法、介助法について学修し、介助者・対象者にとって理想的な介助法を実技を通して学修する。また、在宅における生活やケアの実際についても学修する。		
到達目標	日常生活活動学で学修した事柄を、実技等で動作に活かすことができる。また、代表的な疾患の特異的な動作を動作分析という視点に立って説明と指導ができる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	ADLにおけるバイオメカニズム	重心の変位、速度、加速度を抽出する
第2回	寝返り、起き上がり①	パターンの抽出とバイオメカニズム
第3回	寝返り、起き上がり②	動作分析と作図
第4回	立ち上がり・着座①	足の位置の違いによるパターンの抽出とバイオメカニズム
第5回	立ち上がり・着座②	動作分析と作図
第6回	移乗①	移乗の知識（具体的な介助方法の抽出）を深める
第7回	移乗②	移乗を実際に行い、移乗に必要な自らの動作を抽出する
第8回	日常生活活動別の動作観察と支援案①	身辺処理（食事）の動作観察のポイント、障害にあわせた福祉用用具や自助具と環境整備の理解。
第9回	日常生活活動別の動作観察と支援案②	身辺処理（整容）の動作観察のポイント、障害にあわせた福祉用用具や自助具と環境整備の理解。
第10回	日常生活活動別の動作観察と支援案③	身辺処理（更衣）の動作観察のポイント、障害にあわせた福祉用用具や自助具と環境整備の理解。
第11回	日常生活活動別の動作観察と支援案④	身辺処理（排泄）の動作観察のポイント、障害にあわせた福祉用用具や自助具と環境整備の理解。
第12回	講義時に指定する	身辺処理（入浴）の動作観察のポイント、障害にあわせた福祉用用具や自助具と環境整備の理解。
第13回	家庭生活・日常生活関連活動の動作観察と支援案①	炊事・調理の動作観察、障害にあわせた福祉用用具や自助具と環境整備の理解。
第14回	家庭生活・日常生活関連活動の動作観察と支援案②	洗濯・掃除の動作観察と、障害にあわせた福祉用用具や自助具と環境整備の理解。
第15回	その他日常生活	外出、生活管理、趣味、就労

テキスト・参考書	教科書：伊藤利之他編　新版日常生活活動（ADL）第2版評価と支援の実際　医歯薬出版株式会社 参考書：濱口豊太編　標準作業療法学日常生活活動・社会生活行為学　医学書院 酒井ひとみ編　作業療法学全書　改訂第3版 第11巻　作業療法技術学3　日常生活活動　協同医書出版 伊藤利之　他監修　ADLとその周辺―評価・指導・介護の実際　第2版　医学書院
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義にはプリントとスライドを使い、講義と実技を行う。
評価方法	レポート（100%）
オフィスアワー	講義時に指定する
備考・履修条件	運動学の当箇所の予習と、授業後はその日のポイントを復習すること

学部	リハビリテーション学部・作業療法学科		
授業科目名	義肢装具学	担当教員名	原　和子【実務該当教員】
学年 開講時期	２年次　後期	授業の方法	講義
単位数	１単位	必修/選択	必修
授業の概要	本講義では義肢・装具・スプリント、それぞれの定義、歴史、基本的な構造、種類と使用目的、適用と断端管理等の知識の習得をする。特に、作業療法士として取り扱う上肢の義手においては、多様なパーツの名称、役割、調整を知り、それらのチェックアウトについて学修する。さらに、義肢装着者の日常生活における補助としての義肢の機能を理解し、義肢の機能としての限界を学び、作業療法士として支援できる範囲を学ぶ。また、義肢装具士の提供する装具と作業療法士の提供する装具の意義について学ぶ。		
到達目標	①義肢装具の目的・構造の概略を説明できる。②義肢装具の適合判定項目を説明できる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス 装具概論	上肢装具を中心に目的、分類
第2回	上肢装具、疾患と適応	腕神経叢損傷、PBL1
第3回	肩装具、肘装具　構造と機能	腕神経叢損傷、　PBL1　発表
第4回	上肢装具、疾患と適応	末梢神経損傷、PBL2
第5回	上肢装具、疾患と適応	末梢神経損傷、PBL2　発表　　手部義手・前腕義手・筋電義手
第6回	上肢装具、疾患と適応	頸髄損傷、関節リウマチ、熱傷、片麻痺
第7回	体幹装具、疾患と適応	目的、分類　PBL3
第8回	体幹装具、疾患と適応	PBL3 発表
第9回	下肢装具、疾患と適応	目的、分類、評価と訓練、足底装具、靴型装具を含む
第10回	上肢義手総論	上肢議手の種類、チェックポイント
第11回	前腕切断の作業療法	評価と訓練。筋電義手を含む
第12回	講義時に指定する	評価と訓練
第13回	下肢切断と義足	目的、分類、PBL4
第14回	下肢切断と義足	作業療法、PBL4　発表
第15回	まとめ、ポートフォリオ提出	ポートフォリオ

テキスト・参考書	テキスト：「義肢装具のチェックポイント」日本整形外科学会監修、医学書院 「標準作業療法学、身体機能作業療法学、第三版」医学書院 参考書：「装具作業療法学入門」　原　和子　　パシフィックサプライ、１９８７
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントを配布する。
評価方法	定期試験（50%）・発表及びポートフォリオ（50%）
オフィスアワー	講義時に指定する
備考・履修条件	テキスト該当箇所の予習と授業後にその日のポイントの復習

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	作業と心身機能	担当教員名	澤 俊二【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	選択
授業の概要	作業遂行は、人、対象、環境、目標などの相互作用によって様々に変化しながら達成される。作業遂行の基盤となる人、対象及び環境について理解を深めるために、生活行為の動作を例示し分析を行う。作業療法治療の基礎となるテコ、関節モーメント、重心と支持基底面などの生体力学と作業の関係を示しながら講義を展開する。さらに人の行動は環境の刺激を手がかりにしており、その結果環境からさまざまな応答を受け取りながら生活している。そのため人が行動（作業）をどのように学習するのか講義する。		
到達目標	①作業時に働く力と作用について説明できる。 ②作業時の筋活動と関節運動について説明できる。 ③運動の作業療法への応用について説明できる。 ④作業の学習や自発的・継続的な作業、行動の学習について説明できる。		
授　業　計　画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	作業時に働く力と作用①	力とは、動作と相互に作用する力	
第2回	作業時に働く力と作用②	日常生活活動で使う用具と力	
第3回	作業時に働く力と作用③	支持基底面と重心	
第4回	作業時の筋活動と関節運動①	骨格筋の構造と筋出力のメカニズム、日常生活で必要な筋収縮様式と筋力	
第5回	作業時の筋活動と関節運動②	日常生活で生じる関節運動パターン	
第6回	運動の作業療法への応用①	姿勢保持の方法	
第7回	運動の作業療法への応用②	重心と体幹の運動の観察	
第8回	運動の作業療法への応用③	立ち上がり動作	
第9回	運動の作業療法への応用④	立ち上がり動作の観察	
第10回	運動の作業療法への応用⑤	リーチ動作と把握	
第11回	運動の作業療法への応用⑥	リーチ動作の観察	
第12回	講義時に指定する	オペラントの条件づけ、レスポンデント条件づけ	
第13回	作業を学習するための理論② 作業を自発的に行い、継続するための理論①	行動学習、行動とは	
第14回	作業を自発的に行い、継続するための理論②	先行刺激、後続刺激	
第15回	行動学習の方法	分化強化、人間の行動ルール、望ましい行動のスケジュール	
テキスト・参考書	教科書：濱口豊太編　標準作業療法学専門分野基礎作業学　第3版　医学書院 参考書：中村隆一他著　基礎運動学　第6版　医歯薬出版株式会社		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20%）、レポート（80%）		
オフィスアワー	水曜日　16:20～17:20　研究室		
備考・履修条件	予習として，講義テーマに該当する解剖・生理・運動学等の講義の復習を行こと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	作業と神経生理	担当教員名	大星 有美 【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	選択
授業の概要	作業遂行は人、対象、環境、目標などの相互作用によって様々に変化しながら達成される。作業遂行の基盤となる人、対象及び環境について理解を深めるために、随意運動の制御、運動における呼吸・循環系の役割について学習する。作業に不可欠な到達動作や把握運動を通して、運動プログラム、フィードバックと運動制御、姿勢調節などの神経生理と作業の関係を示しながら講義を展開する。最終講義では、事例を示しながら作業療法治療の実際も学んでいく。		
到達目標	①運動における呼吸・循環系の役割について説明できる。 ②随意運動の制御について説明できる。 ③作業とニューロリハビリテーションについて理解できる。		
授　業　計　画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	運動における循環器・呼吸器系の役割①	運動時の循環器系変化のメカニズム	
第2回	運動における循環器・呼吸器系の役割②	運動時の呼吸器系変化のメカニズム	
第3回	作業と生体機能変化①	作業による神経生理学的変化	
第4回	作業と生体機能変化②	作業による自律神経機能変化	
第5回	随意運動制御①	随意動作発現のメカニズム	
第6回	随意運動制御②	運動学習の神経メカニズム	
第7回	随意運動制御③	神経可塑性変化のメカニズム	
第8回	随意運動制御④	作業における運動制御　到達動作・把握運動	
第9回	作業とニューロリハビリテーション①	作業と神経生理学的アプローチとの関連性	
第10回	作業とニューロリハビリテーション②	非侵襲的中枢神経機能検査法PET・MRI等	
第11回	作業とニューロリハビリテーション③	非侵襲的中枢神経機能検査法EEG・NIRS等	
第12回	講義時に指定する	運動イメージとブレイン・マシン・インターフェース	
第13回	作業とニューロリハビリテーション⑤	学習と学習された不使用	
第14回	作業とニューロリハビリテーション⑥	非侵襲的脳刺激を併用したニューロリハビリテーション	
第15回	作業と神経生理　応用事例	神経生理を作業療法に応用した事例紹介	
テキスト・参考書	教科書：濱口豊太編　標準作業療法学専門分野基礎作業学　第3版　医学書院、 玉木彰監修　リハビリテーション神経科学　メジカルビュー社 参考書：生理学で使用する教科書		
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。		
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20%）、レポート（80%）		
オフィスアワー	火曜日　16:20～17:20　研究室		
備考・履修条件	予習として，講義テーマに該当する解剖・生理・運動学等の講義の復習を行うこと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。		

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	中枢神経系作業療法学Ⅰ	担当教員名	澤 俊二・大星 有美【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法士が病院等で担当する対象者の多くは脳卒中や脳外傷をはじめとする中枢神経系障害を患った方である。対象者のリハビリテーションを展開する上では、これらの疾患の病態と障害像を理解にはじまり、心身機能・身体構造的側面、活動的側面、参加的側面、環境因子といった人と環境の包括的評価が重要である。そして、その後の具体的支援方法に関しては日々進歩する医療の現状と科学的根拠を知り、それを適宜引き出す力が必要となる。本講義では、中枢神経系作業療法演習の前段階として位置づけ、中枢神経系の基本的な解剖生理の理解から始まり、作業療法が実施する評価、治療アプローチまでの知識を学修する。		
到達目標	①中枢神経系の疾患について理解する。 ②適切な評価項目を選定できる。 ③予後予測から作業療法プログラムへの応用力を身につける。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	脳卒中の病態整理①	基本的な脳の機能と脳卒中の病態を学習する。
第2回	脳卒中の病態整理②	ICFに基づく脳卒中の障害像と作業療法士の役割を学習する。
第3回	脳卒中における作業療法①	急性期における作業療法士の役割と支援方法を学習する。
第4回	脳卒中における作業療法②	回復期における作業療法士の役割と支援方法を学習する。
第5回	脳卒中における作業療法③	維持期における作業療法士の役割と支援方法を学習する。
第6回	脳卒中における作業療法④	支援に関わる根拠と予後予測の考え方を学習する。
第7回	回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の実際①	上肢麻痺、高次脳機能障害に対する支援と体験学習
第8回	回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の実際②	日常生活、自動車運転再開に対する支援と体験学習
第9回	高次脳機能障害と作業療法①	失認の病態とリハビリテーション理論を学習する。
第10回	高次脳機能障害と作業療法②	失行の病態とリハビリテーション理論を学習する。
第11回	高次脳機能障害と作業療法③	失語の病態とリハビリテーション理論を学習する。
第12回	講義時に指定する	その他の高次脳機能障害の病態とリハビリテーション理論を学習する。
第13回	脳外傷の病態生理	脳外傷について種類と原因から障害像を理解する。
第14回	脳外傷の作業療法①	急性期の役割を学び、その評価とアプローチを学習する。
第15回	脳外傷の作業療法②	回復期の役割を学び、その評価とアプローチを学習する。

テキスト・参考書	教科書：矢谷令子編：標準作業療法学　身体障害作業療法学（第３版）．医学書院 参考書：正門由久・高木誠　編著：脳卒中基礎知識から最新リハビリテーションまで. 医歯薬出版. 2019
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（30%）、定期試験成績（70%）
オフィスアワー	水曜日　16:20～17:20　研究室
備考・履修条件	予習：次講義の内容についてテキストを読み込むこと。復習：講義の内容を各自でノートにまとめながら復習すること。

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	中枢神経系作業療法学Ⅱ	担当教員名	澤 俊二・大星 有美【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　後期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	身体障害領域の対象疾患である神経難病疾患や神経筋疾患に対する作業療法について学修する。神経難病系障害や運神経筋疾患の理解を深めるために、機能解剖を理解する必要があることから解剖学的・生理学的根拠を示しながら講義をすすめていく。 対象となる傷病は神経難病系疾患においては、パーキンソン病および脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症を選出し、神経筋疾患においては多発性硬化症、ギラン･バレー症候群、重症筋無力症を中心に講義をすすめる。		
到達目標	①神経難病系疾患を理解・把握する。 ②神経難病系疾患の評価を理解する。 ③神経難病系疾患の治療を理解する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	神経難病と作業療法	神経難病疾患の作業療法について知る。
第2回	神経変性疾患①	神経変性疾患の概要を知る。
第3回	神経変性疾患②	パーキンソン病の作業療法評価について理解する。
第4回	神経変性疾患③	パーキンソン病の作業療法治療について理解する。
第5回	神経変性疾患④	脊髄小脳変性症の作業療法評価について理解する。
第6回	神経変性疾患⑤	脊髄小脳変性症の作業療法治療について理解する。
第7回	神経変性疾患⑥	筋萎縮性側索硬化症の作業療法評価について理解する。
第8回	神経変性疾患⑦	筋萎縮性側索硬化症の作業療法治療について理解する。
第9回	神経筋疾患①	神経筋疾患の概要を知る。
第10回	神経筋疾患②	多発性硬化症の作業療法評価について理解する。
第11回	神経筋疾患③	多発性硬化症の作業療法治療について理解する。
第12回	講義時に指定する	ギラン･バレー症候群の作業療法評価について理解する。
第13回	神経筋疾患⑤	ギラン･バレー症候群の作業療法治療について理解する。
第14回	神経筋疾患⑥	重症筋無力症の作業療法評価について理解する。
第15回	神経筋疾患⑦	重症筋無力症の作業療法治療について理解する。

テキスト・参考書	矢谷令子 他編集：標準作業療法学 専門分野　作業療法評価学（第３版）　医学書院 矢谷令子 他編集：標準作業療法学 専門分野　身体機能作業療法学（第３版）　医学書院
学修方法	各テーマについての講義を行う。 講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（30%）、定期試験成績（70%）
オフィスアワー	水曜日　16:20～17:20　研究室
備考・履修条件	該当講義に関する予習及び講義で学んだ内容を復習すること。

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	運動器系作業療法学	担当教員名	就任予定者
学年 開講時期	2年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法治療における対象疾患である整形外科・外科系疾患の病態やそれに伴う障害について、各疾患の評価項目・評価手技の選択、目標設定、治療計画および治療実施の方法について学習する。対象となる疾患については、末梢神経損傷および脊髄損傷、関節リウマチを対象に講義をすすめていく。 整形外科・外科系障害の理解を深めるために、機能解剖を理解する必要があることから解剖学的・生理学的根拠を示しながら講義をおこなっていく。		
到達目標	①作業療法で主な対象疾患となる整形外科・外科系疾患を理解・把握する。 ②作業療法で主な対象疾患となる整形外科・外科系疾患の評価を学習する。 ③作業療法で主な対象疾患となる整形外科・外科系疾患の治療を学習する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	整形外科・外科系疾患の作業療法①	末梢神経損傷の疾病について知る。
第2回	整形外科・外科系疾患の作業療法②	末梢神経損傷の疾病に対する作業療法評価を理解する。
第3回	整形外科・外科系疾患の作業療法③	末梢神経損傷の疾病に対する作業療法治療を理解する。
第4回	整形外科・外科系疾患の作業療法④	脊髄損傷の疾病について知る。
第5回	整形外科・外科系疾患の作業療法⑤	脊髄損傷の疾病に対する作業療法評価を理解する。
第6回	整形外科・外科系疾患の作業療法⑥	脊髄損傷の疾病に対する作業療法治療を理解する。
第7回	整形外科・外科系疾患の作業療法⑦	リウマチの疾病について知る。
第8回	整形外科・外科系疾患の作業療法⑧	リウマチの疾病に対する作業療法評価・治療を理解する。

テキスト・参考書	矢谷令子 他編集：標準作業療法学 専門分野　作業療法評価学（第３版）　医学書院 矢谷令子 他編集：標準作業療法学 専門分野　身体機能作業療法学（第３版）　医学書院
学修方法	各テーマについての講義を行う。 講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（30%）、定期試験成績（70%）
オフィスアワー	講義時に指定する
備考・履修条件	該当講義に関する予習及び講義で学んだ内容を復習すること。

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	内部障害作業療法学	担当教員名	柴　貴志【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	呼吸器系疾患、循環器系疾患、代謝系疾患、サルコペニア、がんの病態やそれに伴う障害の基礎、生活習慣病との関連について理解する。内部疾患系障害の理解のために、各疾患、障害について解剖学、生理学、運動学的な根拠を示しながら講義を展開する。疾患に起因する活動制限や参加制約を学ぶとともに、目に見えづらい障害であるが故に理解が得られにくい状態と抑うつとの関連性ついて学ぶ。バイタルサインとリスク管理や家族支援の重要性についても学習していく。		
到達目標	①内部障害の原因疾患について説明することができる。 ②リハビリテーション臨床上に必要な知識を説明することができる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	内部障害とは	定義、生活習慣病との関連、機能障害・能力障害・QOLを理解する
第2回	エネルギー代謝と運動耐容能、糖尿病	栄養管理と血糖コントロール、糖尿病の基礎を理解する
第3回	消化器機能障害、免疫機能障害	消化器関連臓器の機能解剖、免疫機能について理解をする
第4回	腎機能障害、肝機能障害	腎臓・肝臓の基礎、慢性腎臓病の病態と透析、肝硬変について理解する
第5回	循環器障害	循環器の解剖・生理、心不全について理解する
第6回	呼吸器障害	呼吸器の解剖・生理、閉塞性換気障害と拘束性換気障害について理解する
第7回	膀胱・直腸機能障害	排泄機能の機能解剖、生理について理解をする
第8回	がん	がんの病態理解及び乳がんを中心とした疾患概要を理解する

テキスト・参考書	教科書：石川朗他　編　15レクチャーシリーズ作業療法テキスト　内部障害作業療法学　呼吸・循環・代謝 参考書：曷川元　編著　寝たきりゼロへ進化中　実践！離床完全マニュアル2　慧文社 小林隆司　編　PT・OTﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃｷｽﾄ　身体障害作業療法学2　内部疾患編　第1版　羊土社
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	講義時に指定する
備考・履修条件	予習として，講義テーマに該当する専門基礎科目の講義の復習を行こと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	精神障害作業療法学	担当教員名	就任予定者
学年 開講時期	2年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	精神科作業療法において対象となる統合失調症・気分障害・神経症圏の障害・摂食障害・物質関連障害・パーソナリティー障害・てんかん・老年期障害の特性と症状を把握し、理解する。また、対象となる疾患の生活障害の評価の視点を学び、各疾患の回復過程に応じた治療や援助方法について説明・把握することができるように講義を実施する。多くの機関や職種との連携が必要な状況の中で、作業療法士は 何をすべきか（または役割）を学ぶ。		
到達目標	①精神疾患の臨床像、疾患特性、作業療法の基礎を理解する。 ②疾患特性に合致した作業療法評価計画を立案、実施できる。 ③精神障害を取り巻く環境について説明できる。		
授　業　計　画			
回数	授業テーマ	授業内容	
第1回	作業療法の現状と課題	クライアント中心、作業中心、取り巻く環境、インクルージョン、社会的入院、対象となる精神疾患、法制度	
第2回	精神障害への考慮と作業療法①	精神障害を有する人の作業ニーズ、作業の問題と影響する要因	
第3回	精神障害への考慮と作業療法②	コミュニケーション、協業における考慮	
第4回	作業療法のプロセス	評価-介入-成果のプロセス、目標指向的実践	
第5回	評価のプロセス	作業の問題の評価、遂行要因の評価、評価項目の選択、評価の方法、作業遂行分析、目標の創造	
第6回	介入のプロセスと成果	介入タイプ（作業・活動の使用、教育、作業をサポート、グループ介入など）と介入目的（調整、確立・回復、予防、創造など）	
第7回	プログラムの作成と実践方法	プログラム立案に「精神障害を有する人を対象とした作業と健康に関する知見（作業科学）」を活かす方法	
第8回	地域における作業療法士の実践	地域活動支援センター、デイケア、就労移行など	
テキスト・参考書	石井良和，京極真，長雄眞一郎編　精神領域の作業療法第２版　中央法規出版		
学修方法	講義形式で行いながら、問題解決学習、グループワークを取り入れる		
評価方法	定期試験成績（80%）、授業態度とコメントシート（20%）		
オフィスアワー	講義時に指定する		
備考・履修条件			

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	発達障害作業療法学	担当教員名	相羽　秀子【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	小児疾患系疾患の病態や、それに伴う障害について理解し、作業療法場面において多く経験する小児疾患系疾患である脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎、自閉症スペクトラム障害などを中心に小児疾患系障害の評価と作業療法治療技術について学修する。小児疾患系障害の理解のためには、人間の成長に伴う正常発達を十分に理解する必要がある。また、子どもの身体的・知的特徴や教育などの社会的背景を理解しなくてはならない。様々な要素を伴う小児疾患系障害の作業療法の実際を学ぶ。		
到達目標			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	発達障害について	広義の発達障害、狭義の発達障害の意味、自閉症スペクトラムの特徴について講義
第2回	発達障害について	AD/HD、学習障害等について講義
第3回	正常発達・評価について	各発達段階とその評価について講義
第4回	脳性麻痺について	脳性麻痺の定義、各タイプについて特徴、アプローチについて講義
第5回	筋ジストロフィーついて	筋ジストロフィーの特徴やアプローチについて講義
第6回	二分脊椎について	二分脊椎の特徴やアプローチについて講義
第7回	分娩麻痺・その他の疾患について	分娩麻痺・その他の疾患の特徴とアプローチについて講義
第8回	支援制度等について	障がい児の支援に関して、現在の国や地方での支援制度について

テキスト・参考書	教科書：発達障害作業療法学　ゴールド・マスター・テキスト　第3版 参考書：　発達障害の作業療法【基礎編】 / 岩崎清隆.--第3版--三輪書店, 2019年, ISBN978-4-89590-6708 発達障害の作業療法【実践編】 / 岩崎清隆.--第3版--三輪書店, 2019年, ISBN978-4-89590-6715 イラストで分かる発達障害の作業療法
学修方法	講義、グループワーク
評価方法	試験
オフィスアワー	講義時に指定する
備考・履修条件	

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	老年期障害作業療法学	担当教員名	藤井稚也・大星有美【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　後期	授業の方法	講義
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	超高齢社会の我が国では平均寿命と健康寿命の差で示される不健康な期間の縮小が課題とされている。特に健康寿命の延伸による当期間の縮小が重要となる。本講義では、これらの背景をもとに老年期における作業療法支援の実際と方法を学修し、さらに現在はもとより未来展望的に求められる役割にまで波及した内容を展開する。主には、フレイル、サルコペニア、転倒、認知症等の予防とケア、そして老年期障害に対する支援等であり、これらの支援における基本的知識と評価、実践技術を学び理解する。		
到達目標	①加齢と老化による心身機能の変化を理解し、老年期疾患の特徴が説明できる。 ②フレイル、サルコペニア、認知症等の発症要因と保護的要因を理解し、その予防とケアの方法を提案できる。 ③転倒の発生機序を理解し、予防策を提案できる。		

授　業　計　画		
回数	授業テーマ	授業内容
第1回	老化による心身の変化	加齢、老化、老年症候群について学習する。
第2回	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの概要と評価①	概要と評価方法を学習する。
第3回	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの概要と評価②	概要と評価方法を学習する。
第4回	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの予防と支援①	地域の介護予防・地域支援事業、病院・施設での作業療法の実際を学習する。
第5回	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの予防と支援②	地域の介護予防・地域支援事業、病院・施設での作業療法の実際を学習する。
第6回	転倒と外傷①	転倒の疫学、発生要因、代表的な外傷とそれらに対する作業療法支援を学習する。
第7回	転倒と外傷②	代表的な外傷とそれらに対する作業療法支援を学習する。
第8回	転倒と外傷③	代表的な外傷とそれらに対する作業療法支援を学習する。
第9回	認知症施策の変遷	認知症施策の歴史的変遷を学習する。
第10回	認知症の基本的理解①	AD、若年性AD、MCIの障害像を学習する。
第11回	認知症の基本的理解②	FTD、DLB、VDの障害像を学習する。
第12回	講義時に指定する	中核症状と周辺症状、介護負担の実際を学習する。
第13回	認知症者等に対する作業療法の実際①	代表的な支援・アプローチとその考え方を学習する。
第14回	認知症等に対する作業療法の実際②	評価方法を学習する。
第15回	認知症者等に対する作業療法の実際③	認知症初期集中支援、認知症サポーター、互助の役割について学習する。

テキスト・参考書	教科書：小川敬之 他：認知症の作業療法～ソーシャルインクルージョンをめざして～　第2版　医歯薬出版
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	木曜日　16:20～17:20　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部・作業療法学科		
授業科目名	ハンドセラピィ学	担当教員名	原　和子【実務該当教員】
学年 開講時期	２年次　後期	授業の方法	講義
単位数	１単位	必修/選択	必修
授業の概要	手外科に必要な上肢に関する関節運動や軟部組織の名称について理解を深める。手外科の代表的な疾患・障害について学修し、その手術の概要について理解する。また、それらの術前、術後の評価と訓練について学修する。疾患は骨折、屈筋腱損傷、伸筋腱損傷とし、これらの評価・訓練の方法を学ぶ。副次的な疾患の対処法として、癒着、拘縮の症状を学修し、これらの予防及び癒着・拘縮除去の方法、装具の適応について学修する。運動学、解剖学、生理学、義肢装具学の根拠を示しながら、講義を展開する。		
到達目標	手外科の各疾患における病態を理解し，説明できる．また，それらの疾患の作業療法（評価・治療・訓練）を説明できる．		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	手の意義と手の進化	手の進化と他の種の手の効果器としての意義とその進化
第2回	手の機能と解剖	手指に限局した解剖とその運動
第3回	手の各筋腱の走行と運動	手のシェーマを理解し，腱の動態を理解する
第4回	屈筋腱損傷１	腱の組織，栄養，特徴
第5回	屈筋腱損傷２	屈筋腱修復術における特徴と禁忌事項
第6回	屈筋腱損傷３	屈筋腱損傷の作業療法（３週間固定，早期運動含む）
第7回	伸筋腱損傷１	伸筋腱の特徴と機能特性
第8回	伸筋腱損傷２	伸筋腱修復術における特徴と禁忌事項
第9回	伸筋腱損傷３	伸筋腱損傷の作業療法
第10回	拘縮・癒着	拘縮の種類，癒着の鑑別と剥離術
第11回	骨折１	橈骨遠位端骨折
第12回	講義時に指定する	橈骨遠位端骨折と手指骨折
第13回	骨折３	手指骨折
第14回	熱傷	熱傷の病態と作業療法
第15回	CRPS	CRPSの概念と作業療法

テキスト・参考書	プリント資料　（参考書：リハビリテーション義肢装具学，メジカルビュー，編集：清水順市・青木主税）
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義にはプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（30%）、定期試験成績（70%）
オフィスアワー	講義時に指定する
備考・履修条件	運動学の手に該当する部分の復習を事前にしておくこと．授業後はその日に復習すること．

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	地域作業療法学	担当教員名	澤 俊二・藤井 稚也【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	講義
単位数	2単位	必修/選択	必修
授業の概要	地域包括ケア時代の到来にともない、作業療法士がそれぞれの地域において活躍することが求められている。作業療法士は人々の大切な生活行為に焦点を当て、医学的視点をもとに支援する専門家であり、今後もますますの活躍が期待されている。本講義では、特に地域リハビリテーションに関する諸法規の変遷から地域包括ケアシステムの誕生までの背景から作業療法士の役割を理解することにはじまり、介護保険下、総合事業、就労支援、認知症初期集中支援ならびに予防とケア、生涯スポーツ支援、住環境整備と自助具の提供等の実際を学習する。		
到達目標	①地域作業療法に求められる役割について説明できる。 ②地域包括ケアシステム、就労支援、認知症初期集中支援等の基礎知識を理解できる。 ③諸法規を理解し、住環境整備の方法を説明できる。		

授　業　計　画		
回数	授業テーマ	授業内容
第1回	総論	地域リハビリテーションと地域作業療法の概念を学習する。
第2回	関連制度と諸法規	当領域に関する関連制度と諸法規を学習する。
第3回	住環境と福祉用具	住環境評価と整備の手法を学習する。
第4回	リスクマネジメント	地域におけるリスクマネジメントを学習する。
第5回	地域リハビリテーションプロセス	プロセスの概要、評価、目標設定、計画立案を学習する。
第6回	地域作業療法学の実際①	訪問系作業療法の実際を学習する。
第7回	地域作業療法学の実際②	就労支援に関する作業療法の実際を学習する。
第8回	地域作業療法学の実際③	学校等作業療法の実際を学習する。
第9回	地域作業療法学の実際④	終末期における作業療法の実際を学習する。
第10回	予防と作業療法①	サルコペニアとフレイル予防の実際を学習する。
第11回	予防と作業療法②	認知症予防・支援の実際を学習する。
第12回	講義時に指定する	転倒予防の実際を学習する。
第13回	行政療法士の役割	行政で働く作業療法士の役割を学習する。
第14回	地域の防災・災害支援	災害時のチーム医療と役割を学習する。
第15回	地域ケア会議	地域包括sケアシステムにおける地域ケア会議の役割を学習する。

テキスト・参考書	教科書：重森健太、横井賀津志（編）　PT・OTビジュアルテキスト　地域リハビリテーション学　第2版　羊土社
学修方法	各テーマについての講義を行う。講義には教科書に加えてプリントとスライドを使う。
評価方法	授業の進行状況に応じて適宜行う小テストの成績（20%）、定期試験成績（80%）
オフィスアワー	水曜日　16:20～17:20　研究室
備考・履修条件	出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	臨床実習Ⅰ（基礎）	担当教員名	作業療法士教員全員・澤俊二・原和子・大星有美・宇佐美友子・藤井稚也【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	実習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	医療施設、福祉施設の見学を通して社会や医療の中における作業療法士の役割と責任を全体的に理解する。そのために、実習に臨むの必要な基本的技能をOSCEを通して技能を修得する。また、本実習以降の専門的な学修を通じての知識習得をより効果的かつ有意義に行えるように準備する。施設実習後には、それまでに学んだ知識のもとに、実習で体験した内容をまとめ考察する。		
到達目標	実習施設内での作業療法科の位置づけ、他職種との連携業務の流れ、作業療法の業務内容を理解することができる。対象者の疾患・障がいより、必要な基本的知識・技術・態度を理解できる。作業療法士としての支質について理解できる。対象者や医療スタッフ等と良好なコミュニケーションを取ることができる。		
実習方法	１）実習施設は、岐阜近隣の病院、介護老人保健施設等を使用する。 ２）学生は原則1施設あたり1～2人に分かれて実習するが、それ以上の人数を配置する場合もある。 ３）学生1人当たりの実習期間は、5日間の集中実習とする。（実習計画は以下のとおり）。 ４）実習開始前にガイダンスを含めた指導を学内で行う。 ５）実習終了後、実習施設での経験内容についてディスカッションを行う。 ６）実習内容は、次のとおりとする。 (1)社会人としての適切な態度の理解と実施。 (2)医療施設、福祉施設におけるリハビリテーション部門の概要と理解。 (3)医療従事者の役割や業務の流れの理解。 (4)医療従事者の患者との関わり方の理解。 (5)守秘義務、個人情報保護の理解・実施。		

実習計画および学習課題

週	曜日	内容
第１週	1日目	オリエンテーション、臨床見学、標準予防策等のリスク管理指導、報告書作成等の課題。
	2日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。
	3日目	他部門見学、関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。
	4日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。
	5日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題、指導者総括。

テキスト・参考書	別途指示する。
評価方法	出席20%、提出物20%、実習報告会50%、評価表20%
留意事項 （履修条件他）	1年次配当の必須科目をすべて履修していることを本科目の履修要件とする。 １）実習期間は全出席に努めること。 ２）実習前のガイダンスや実習前評価、実習後の実習経験報告会は本科目履修に非常に重要なため欠席を認めない。

学部 研究科	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	臨床実習Ⅱ(地域)	担当教員名	作業療法士教員全員・澤俊二・原和子・大星有美・宇佐美友子・藤井稚也【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　前期	授業の方法	実習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションの見学等を通じて、地域作業療法における役割と業務の実際を学び、学内での講義で学んだ知識と結びつける。本実習に臨むの必要な基本的技能をOSCEを通して技能を修得して実習に取り組む。施設実習後には、それまでに学んだ知識のもとに、実習で体験した内容をまとめ考察する。		
到達目標	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションにおける作業療法士の役割と、地域包括ケア、介護予防の視点から多職種連携の重要性を理解できる。対象者との良好なコミュニケーションを取ることができ、ニード等の聴取ができる。		
実習方法	１）実習施設は、岐阜近隣の通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションを使用する。 ２）学生は原則1施設当たり1～2人に分かれて実習するが、それ以上の人数を配置する場合もある。 ３）学生1人当たりの実習期間は、5日間の集中実習とする。(実習計画は以下のとおり）。 ４）実習開始前にガイダンスを含めた指導を学内で行う。 ５）実習終了後、実習施設での経験内容についてディスカッションを行う。 ６）実習内容は、次のとおりとする。 (1)通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションの施設形態を知る。 (2)当該施設における作業療法士の役割の理解。 (3)地域包括ケア、介護予防の視点から多職種連携の重要性の理解。 (4)対象者との関わり方の理解。（コミュニケーション・ニード聴取） (5)守秘義務、個人情報保護の理解・実施。		

実習計画および学習課題

週	曜日	内容
第１週	1日目	オリエンテーション、臨床見学、報告書作成等の課題。
	2日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。
	3日目	他部門見学、関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。
	4日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題。
	5日目	関連職種見学、臨床見学、報告書作成等の課題、指導者総括。

テキスト・参考書	別途指示する。
評価方法	臨床実習評価報告書（30%）、提出物（50%）、実習経験報告会（20%）
留意事項 (履修条件他)	1年次配当の必須科目をすべて修得していることを本科目の履修要件とする。 １）実習期間は全出席に努めること。 ２）実習前のガイダンスや実習前評価、実習後の実習経験報告会は本科目履修に非常に重要なため欠席を認めない。

学部 研究科	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	実践力演習Ⅰ	担当教員名	作業療法士教員全員　澤俊二、原和子・大星有美・宇佐美知子・藤井稚也【実務該当教員】
学年 開講時期	1年次　後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	リハビリ専門職は対象者とその家族、他の医療福祉職との良好関係を築くことが重要である。そのためには、礼節や共通知識・技能・態度はもとより、自身の目指す療法士や各医療専門職の役割を学ぶ必要がある。また、リハビリ専門職としての自主性、判断力は必要不可欠である。 本講義では、アクティブラーニングを主体とし、礼節とコミュニケーション技能、医療福祉職の共通知識と技能、医療福祉職の役割を学修することで基礎的な実践力の養生をはかる。		
到達目標	①作業療法士と他の医療福祉専門職の働く領域と役割について説明することができる。 ②他の医療福祉専門職と良好関係を築くことの必要性を説明することができる。 ③自主的に目標や課題を見つけることができる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	学習意欲と目的	作業療法場面を見聞し、自身の目指す療法士像や目標・課題について考察する。
第2回	目標設定の考え方	目標設定シートを使用して、学習目標のつながりを明確にする。
第3回	作業療法プロセスの実践	作業療法プロセスを学習し、シートから目標を5つ選択し、遂行度と満足度を記入する。
第4回	計画の立案	PDCA理論に基づき、設定した目標の達成に向けてプランニングする。
第5回	発表	目標設定からプランニングまでの内容をPowerpointにて発表する。
第6回	臨床技能の概要と心構え	臨床で求められる知識や技能に関する概要と心構えについて学習する。
第7回	標準予防策とリスク管理	臨床場面で必要とされる標準予防策とリスク管理の知識・技術を学習する。
第8回	コミュニケーション技法	患者等とのラポール形成や情報収集に必要なコミュニケーション技法に関する知識・技能を学習する。
第9回	ホットパック実施の補助	臨床で最も用いられる温熱療法のひとつであるホットパックの作用、適応と禁忌、補助方等の知識・技能を学習する。
第10回	上肢管理（三角巾等の装着）	麻痺や外傷後の二次的合併症の予防等に必要な上肢管理に関する知識・技能を学習する。
第11回	下肢装具の装着介助	装具の定義と下肢装具の目的、および代表的な下肢装具の種類とその装着介助に関する知識・技能を学習する。
第12回	車椅子の駆動介助	作業療法士が日常的に実施する車椅子の駆動補助の方法とリスクに関する知識・技能を学習する。
第13回	移乗介助	ベッドから車椅子、車椅子からトイレ等といった、目的や場面別の移乗動作の介助方法に関する知識・技能を学習する。
第14回	知識と技能の確認	第7-13回までに学習した知識・技能の習得状況を確認し、自他によるフィードバックを得る機会とする。
第15回		

テキスト・参考書	監修　才藤栄一：PT・OTのための臨床技能とOSCE－コミュニケーションと介助・検査測定編-第2版補訂版
学修方法	各回に定めた知識・技能を習得するために演習形式にて実施する。
評価方法	OSCE（50%）、レポート（50%）
オフィスアワー	水曜日　12:10～13:00　研究室
備考・履修条件	他者と協調し積極的に取り組むこと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。

学部 研究科	リハビリテーション学部　作業療法学科		
授業科目名	実践力演習Ⅱ	担当教員名	作業療法士教員全員　澤俊二、大星有美・宇佐美知子・藤井稚也【実務該当教員】
学年 開講時期	2年次　後期	授業の方法	演習
単位数	1単位	必修/選択	必修
授業の概要	作業療法士の領域は医療にとどまらず、地域での健康支援、障害者の自己実現や社会参加に向けた支援、こどもの発達支援、防災・災害リハビリテーション等と多岐にわたる。したがって、作業療法士としてこれらの領域で活躍するための知識・技能・態度の修得は必要不可欠である。 本講義では、アクティブラーニングを通じて、複数の領域における作業療法士の役割、支援に向けた課題と整理、支援計画と技能を学修することで実践力を養生する。		
到達目標	①作業療法士の活躍する領域の種類とその役割を説明することができる。 ②支援に向けた課題を整理することができる。 ③支援を計画し、実践策をプレゼンテーションすることができる。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	地域で活躍する作業療法士の活動を調べ学習する。シミュレーション教育の概要と課題の進め方を学習する。
第2回	就労支援と作業療法①	就労支援の現状と課題をピックアップする。
第3回	就労支援と作業療法②	岐阜県かにおける就労支援事業の取り組みをまとめる。
第4回	就労支援と作業療法③	岐阜県かにおける就労支援事業の取り組みを発表する。
第5回	健康支援と作業療法①	病院、施設以外で活躍する作業療法士の実際について調べる。
第6回	防災・災害とリハビリテーション①	岐阜県の防災・災害リハビリテーションについて調べる。
第7回	防災・災害とリハビリテーション②	岐阜県の防災・災害リハビリテーションの課題についてディベートする。
第8回	シミュレーション教育①	形態測定の実践技能を学習する。
第9回	シミュレーション教育②	関節可動域測定について実践技能を学習する。
第10回	シミュレーション教育③	筋力測定について実践技能を学習する。
第11回	シミュレーション教育④	感覚検査の実践技能を学習する。
第12回	シミュレーション教育⑤	反射検査、筋緊張検査の臨床技能を学習する。
第13回	シミュレーション教育⑥	脳神経検査、運動失調検査の臨床技能を学習する。
第14回	解剖学実習①	実習を通じて人体の各組織や構造等について理解を深める。
第15回	解剖学実習②	実習を通じて人体の各組織や構造等について理解を深める。

テキスト・参考書	別途指示する。
学修方法	活動を通して支援の実際を感じ、グループで支援計画を立てプレゼンテーションする。後半は各臨床技能を修得する。
評価方法	OSCE（50%）、レポート（50%）
オフィスアワー	水曜日　16:20～17:20　研究室
備考・履修条件	他者と協調し積極的に取り組むこと。 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価対象外とする。